

希望

H O P E

Junior Chamber International Fukuoka

The Creed of Junior Chamber International

We Believe:

That faith in God gives meaning
and purpose to human life;
That the brotherhood of man
transcends the sovereignty of nations;
That economic justice can best be won
by free men through free enterprise;
That government should be of laws
rather than of men;
That earth's great treasure lies in
human personality; and
That service to humanity is the best
work of life.

JC 宣言

日本の青年会議所は
混沌という未知の可能性を切り拓き
個人の自立性と社会の公共性が
生き生きと協和する確かな時代を築くために
率先して行動することを宣言する

綱領

われわれ JAYCEE は
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者 相集い 力を合わせ
青年としての
英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう

JCI Mission

To provide development opportunities
that empower young people to create positive change.

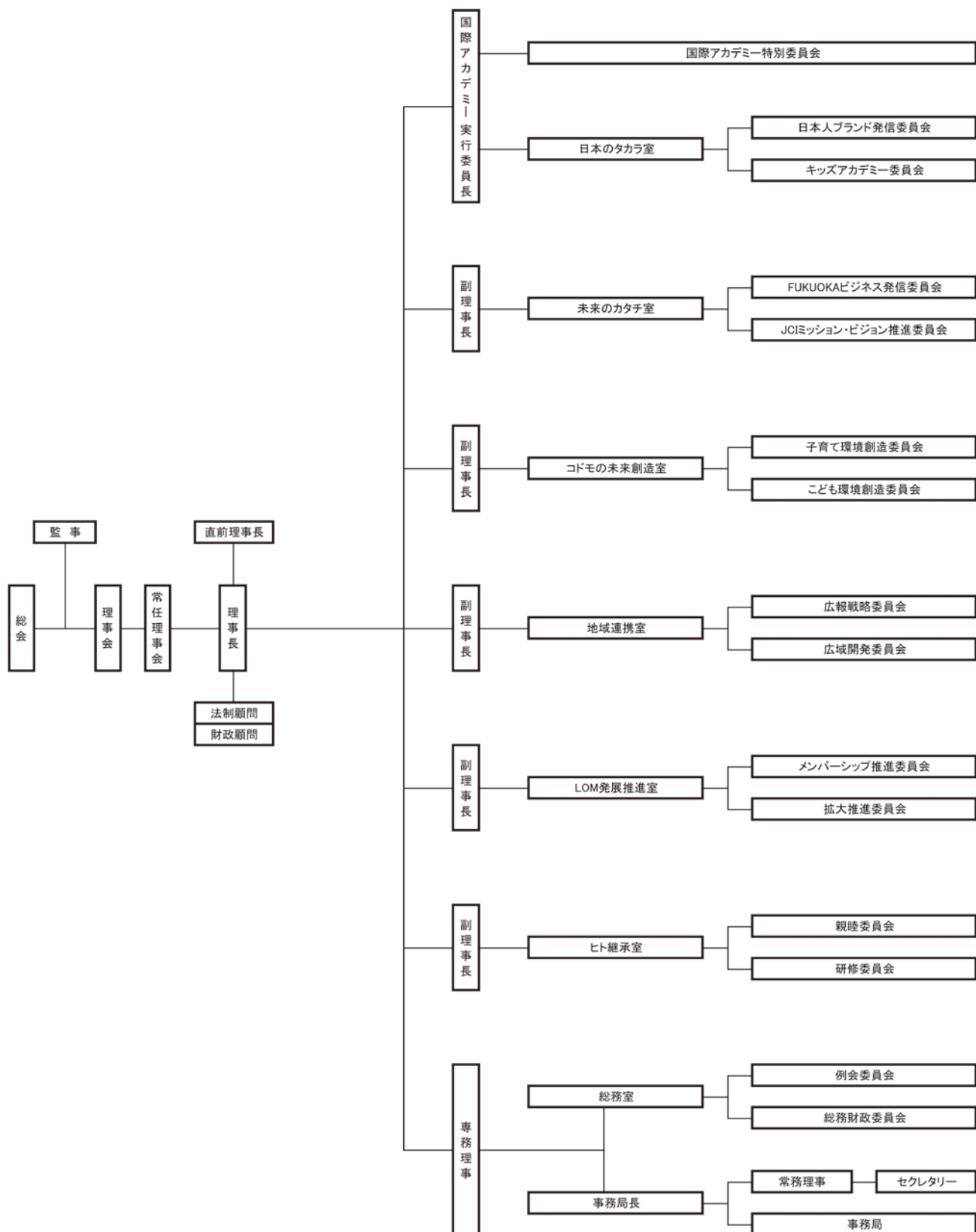
JCI Vision

To be the leading global network of young active citizens.

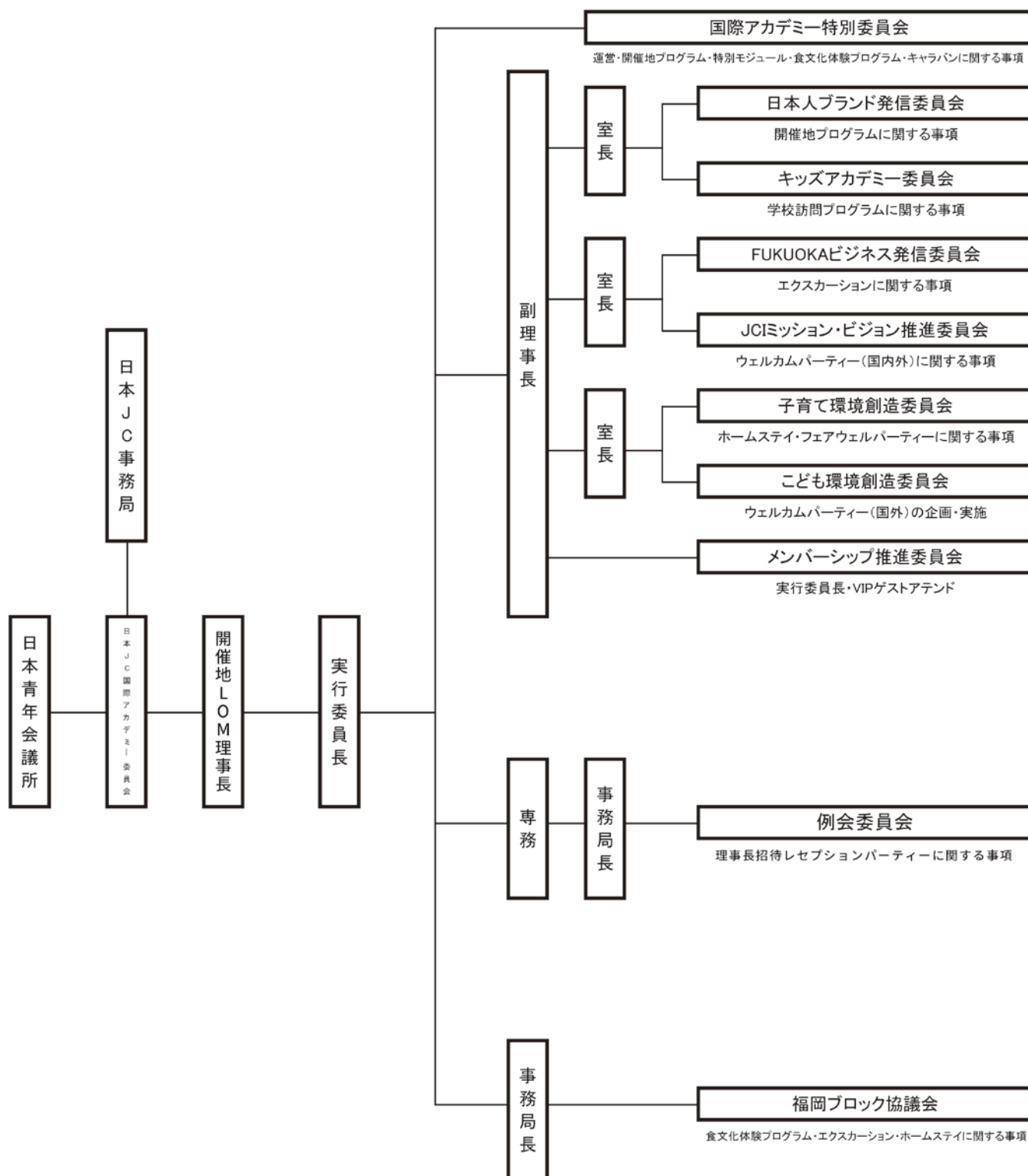
— 目 次 —

2020年度	組織図	2
2020年度	役 員	4
2020年度	理事長所信	5
2020年度	理事長、直前理事長、副理事長、専務理事、 監事、法制顧問、財政顧問、事務局長、 常務理事、セクレタリー	14
2020年度	室・委員会 基本方針・事業計画	16
2020年度	室・委員会 所務分掌規程	38
2020年度	委員会編成表	40
	青年会議所の概況	41
2020年度	日本JC、九州地区協議会、福岡ブロック協議会 組織図	42
	福岡青年会議所 歴代理事長	45
	出向外部団体一覧	46

一般社団法人 福岡青年会議所
2020年度 組織図



一般社団法人福岡青年会議所
2020年度 国際アカデミー実行委員会組織図



一般社団法人 福岡青年会議所 2020年度 役員

理 事 長	出 田 正 城	直前理事長	岩 木 勇 人
国際アカデミー実行委員長 (副理事長待遇常任理事)	安 永 拓 一 郎	監 事	新 福 貴 法 多 賀 谷 兵 馬
副 理 事 長	橋 本 久 志 古 市 剛 彌 登 義 明 井 川 陽 介 山 口 剛 弘	法 制 顧 問	高 原 正 臣 中 野 雄 将
専 務 理 事	蓑 毛 亮	財 政 顧 問	高 木 正 太 郎 牧 野 順 二

常 任 理 事	前 川 裕 貴 年 岡 裕 也 西 嶋 聖 戸 嶋 太 一 吉 田 悠 二 加 地 大 希 花 田 公 一 松 岡 将 史	事務局 長 兼 総務室 長 国際アカデミー特別委員長 日本のタカラ室 長 未来のカタチ室 長 コドモの未来創造室 長 地域連携室 長 LOM発展推進室 長 ヒト継承室 長
理 事	鍋 山 健 吾 中 原 壮 一 朗 金 海 安 州 之 榎 本 淳 一 堤 祐 一 郎 岩 元 一 晃 立 部 光 宝 奥 膳 和 時 石 坂 泰 三 阿 部 俊 幸 石 崎 裕 一 水 崎 浩 二 井 上 量 太 伴 卓 也	日本人ブランド発信委員長 キッズアカデミー委員長 FUKUOKAビジネス発信委員長 JCIミッション・ビジョン推進委員長 子育て環境創造委員長 こども環境創造委員長 広報戦略委員長 広域開発委員長 メンバーシップ推進委員長 拡大推進委員長 親睦委員長 研修委員長 例会委員長 総務財政委員長
常 務 理 事	川 嶋 優 介 尾 本 勝 征 古 田 真 幸	(福岡ブロック協議会 外部連携委員長)



理事長 出田 正城

JCには様々な青年経済人が一同に集い、創業者や後継者、政治家や士業、サラリーマン、女性メンバー等、それぞれの時間軸の環境の中で、仕事や自分の時間を削り JC に時間を注いでいます。

何のために JC をやるのか。世間から見て、まちづくり、ひとづくりの団体というイメージは今、どうでしょうか。JC のことを知っている人がどれだけいるのでしょうか。飲み会で仲間と盛り上がり友情を育むことだけが我々の活動の姿ではありません。飲み会以外に何をやっている団体なのか。近年、会員拡大をしている中でも、そういった話をよく聞きます。しかし、この団体の根底には、67 年間の運動の歴史が確かなものであるからこそ、何かやってくれるかもしれないと、まちに期待されているのも事実です。

私自身、入会するまでは JC の存在自体を知りませんでした。しかし今では、大切な時間を削ってきた分、JC には人生が大きく変わる出会いがあり、誰かのために手弁当で汗をかくことで、自分自身が成長を遂げることができる誇り高い団体であると断言できます。まずはこの先、JC を世間のひとに知られていくことで、JC 運動を理解されていくこと。そして『ひとりになっても JC 運動を続けていく。』そんな JAYCEE が、同じ志を持つヒトを、一人でも多く創っていくことが、このまち、そして日本の「希望」となり、明るい豊かな社会の実現への一歩になると確信しています。

2020 年度は、そんなヒトが育つべく組織として根ざす運動を展開して参ります。

『FUKUOKA と福岡 JC』

これまで福岡市は他の都市と比べても数少ない、民間主導・民間投資が行政を後押しした、官民連携事業を中心とした常識破りな、まちづくりを展開してきた中で、福岡 JC も FUKUOKA のために、まちづくり運動を起こしてきました。

1965 年には政令指定都市をめざしていた北九州市に続き工業都市を目指す福岡市のマスタープランに対して、福岡 JC が 10 周年を迎えた年には「福岡に寄せる期待と提言」という、第三次産業に力を入れて情報集約都市、都市型の都市を目指していくべきであると福岡市に提言を続けました。結果、福岡市が福岡 JC の提言を全面的に取り入れてマスタープランを改定し「人間都市(ヒューマンシティ)宣言」を実施した歴史があります。その時、蒔いた

種が確実に成長し、現在では人口増加率全国 1 位の発展都市とも呼ばれています。

また、その中でも増加している人口区分は 20 代の若者が多く、2010 年からは 36 歳と若く行動型の市長が誕生し、福岡をアジアのリーダー都市へというビジョンのもと、従来の行政の枠を超えた先進的な政策を展開し、10 年経った今でも人口は増え続け、これからも経済ともに福岡のまちは発展し続けると思われます。そんな時代の動きの中で、福岡 JC もホークス誘致、アジア太平洋こども会議・イン福岡、中洲 JAZZ 等の、福岡 JC の歴史上で代表的な事業を生み出してきた実績があります。また今後も、さらに官・民・JC が連携をとって、まちの一人ひとりが希望に溢れた FUKUOKA をともに目指していけるような大きな巻き込みを図っていくことが福岡 JC の使命なのだと考えます。

『昭和～平成、令和の新時代まで、まちづくりに参画してきた実績は福岡 JC が志高き青年の集いだからこそ、まちを動かすことのできる歴史ある誇り高き団体である証なのです。』

『転換期』

近年では発展都市としてさらに先進的な展開が進んでいく中で、FUKUOKA には元気の象徴ともいえる JC 以外の青年の親睦団体や慈善団体が数多く存在し、様々なイベントがまちを盛り上げてくれています。FUKUOKA のために動く団体が、「唯一福岡 JC しかなかった時代から福岡 JC もある時代」になった今だからこそ、この転換期を福岡 JC の相対的影響力の低下と真摯に受け止めつつも、運動の在り方や組織の在り方を見つめなおし、福岡 JC がさらなるステージへと飛翔できるチャンスと受け止めましょう。

この先、本来あるべき姿である黒子的立場として、他団体や行政・民間の架け橋となっていくことが、今後まちに対して、我々のスタイル(存在意義)を確立していくことになるのではないのでしょうか。その立場になることで、若者たちが、自ら福岡 JC の門を叩くような団体になっていかなければならないのです。そして、福岡 JC が必要とされる団体であり続ける以上、まずは 70 周年、さらに 100 周年を迎えた時に、我々がやってきたことは間違いではなかったと、感涙にむせぶ時がくることを願います。

『誰かのために、まちのために、率先して汗をかき、その喜びを積み重ねていった時に、偶然に起こるような奇跡ではなく、本当の「喜積(きせき)」が起きるのだと信じます。』

『第33回国際アカデミー福岡開催』

本年は、2004 年 JCI 世界会議福岡大会を最後に、JCI 公式諸会議の中で唯一開催していなかった JC 会員の国際親善を奨励とした事業である国際アカデミーの開催地が福岡となります。このことは、2019 年度 G20YEA に続く、LOM とまちへの絶好の国際の機会となり、また、開催地副主管として福岡ブロック協議会第 3 エリア(朝倉 JC、糸島 JC、つくし JC)を

中心とした福岡ブロック協議会や福岡県をも巻き込みながらの福岡市だけでない波及効果をもたらす福岡 JC の使命を秘めた事業であると感じています。

この機会に挑戦するということは、ここ 16 年間の中で、2004 年 JCI 世界会議福岡大会、九州地区大会 2009in 福岡にて先人たちが成しえてきたもの、あの時、福岡 JC が身を粉にして大会をやらなければならなかった核心と想いに触れることができるのではないかと思います。

福岡JCの設営力と経験で福岡JCにしかできない国際アカデミーを！

国際アカデミー実行委員長 安永 拓一郎君を先頭に、国際アカデミー実行委員会を、あえて 9 委員会で組織構成し、福岡 JC が担当する 12 のプログラムの一つひとつのプログラムに全力で取り組むことで、33 年続く国際アカデミーの各プログラムの可能性を高めるとともに、LOM とまちに JCI と国際の機会を十二分に拡げて参ります。そして、対内 9 委員会、福岡ブロック協議会を巻き込んでの、地域文化、ヒト・モノ・カネの資源と先人達の実績を最大限に活かした福岡 JC の誇りでもある『ホスピタリティの精神』をもってデリゲイツの皆様へ最大限の OMOTENASHI で FUKUOKA のファンをつくれます。

メンバーにとってJCの底知れぬ機会を福岡で経験できるチャンス！

国際アカデミーとは、世界の NOM 次年度会頭候補者をはじめとする約 80 名と日本 JC メンバーが集結し、祖国の地域の幸せのため、リーダーとなるべく、海外デリゲイツが福岡のまちに、ホームステイを含む 10 日間の滞在し、海外デリゲイツと日本 JC 中から集った国内デリゲイツが 5 日間、寝食をともにしながらのリーダー研修プログラムです。

私もデリゲイツとして、そして設営側としても国際アカデミーを経験させていただきました。この事業は、デリゲイツ、設営側、そしてまちのヒトの巻き込みに関しても、JC でしか経験できない国際の相互理解を超越した貴重な機会です。

JC を世界でみると、113NOMs、4679LOMs、155,000 人以上の壮大なネットワークがあります。その世界各国の JC が実施している貧困と人類の苦難を救う運動や、JCI のトレーニングの機会、JC に所属する以上は触れておくべきものです。メンバーには JCI に所属しているからこそその成長の可能性を少しでも感じていただき、JCI の世界広大なネットワークと、JCI が実施する運動から湧出する感動を味わってもらいたいと願います。

『青年期という若者の今だからこそ、国際という領域に踏み入れてみましょう。』

『日本へ』

2020 年度は 8 年ぶりに、日本 JC の委員長として、花田 公一君を輩出しました。

近年、減少傾向にあった福岡 JC から日本 J C への出向者が増加し、VC(日本 J C 副委員長)やスタッフの担いを受け、日本中に仲間をつくり、外から福岡 JC をみる経験ができているメンバーがいます。また、出向経験者・国際アカデミーデリゲイツ経験者のスタッフ・理事・執行部が現役メンバーとして在籍しているなかで、国際アカデミーの開催、そして、日本 JC の委員長の輩出を機にそれを支える組織体制をつくっていくことは、近年、日本 JC 全体から見て閉鎖的な LOM だと思われ、LOM での機会しか知らない福岡 JC メンバーにとっても、新たな成長の機会の選択肢、まだ見ぬメンバーのための新たな会員拡大の入口といった福岡 JC の組織向上の兆しになると考えます。

令和という新たな時代を迎えたことで、再び、福岡 JC の先人たちも辿った機会に一人ひとりが、すべての立場と垣根を取り払い、LOM 一体となって、ひとりのメンバーを支援し、FUKUOKA のリーダーを日本へと輩出していける強い LOM にしていきましょう。

ALL 福岡 JC で日本の機会に挑戦するリーダーを後押ししていくこと。引っ張り上げていく人事の決定をしていくことで、組織の縦のラインから生み出す新たなメンバーの開拓と成長の機会、そして組織の発展に繋がると確信しています。そして近い将来、福岡 JC から日本を動かすことのできるリーダーの誕生を願います。

『福岡から日本を変えて行く。そんな大口を叩いていいのは我ら若者であり福岡 JC です。』

『FUKUOKAのための挑戦』

福岡市は名実ともに国際都市となり、2019 年度はラグビーワールドカップ日本大会の試合開催地に選定され、2020 年東京オリンピックにおける事前キャンプ地にも選定されており、2021 年には世界水泳選手権が福岡で開催されるなど、インバウンドに対する受入れの対応力の創造が求められています。

福岡 JC はアテンドや会議、懇親会の準備・進行といった設営力、「おもてなし」をマンパワーで実施することができる団体です。そんな計画から実行、そして対応力を兼ね備えた、社会の中で縛りのない団体だからこそ、昨年 2019 年度に「IR は九州とともに」と、まちに提言したような想いや閃きを行動に移すことができるのです。これからも、JC こそが国際や国のビジネスに伴う経済成長を加速するための運動を起こし続けていくべきだと考えます。

また、昨年の 2019 年には G20 福岡財務大臣・中央銀行総裁会議の開催前に、日本 JC 主管、福岡 JC が開催地 LOM として G20YEA が開催されました。その折においては、日本 JC と福岡 JC が主催・主管の関係を越えた共催ともいえる事業となりました。福岡 JC が今後、まちとともに国際に伴うビジネスを通じて福岡県、九州全体の利益、そして、国益をも繋げていく提案と行動を、全国の同志と連携して、日本のために率先して実行していくことが、

福岡 JC の経験を糧とした挑戦とすることができれば、そこに結果が伴わなかったとしても、まちと福岡 JC の未来につなぐ財産になることは間違いありません。

『JC だからこそ失敗を恐れずに、まちの、国の、先駆けとなる事業に挑戦しよう。』

『FUKUOKA広域地域の開発運動』

福岡が発展していく中で、広域的に市内近郊エリア「町」にも視野に入れてみてはどうでしょうか。すでに、ひとが集まっているところで事業をすることだけが我々の成すべきことだけではありません。今後は、広い視野を持ち、我々の活動エリア内でも着手できていなかった地域でも、地域団体と連携をとり、コンパクトに着実に JC のミッションとビジョンを遂行していくべきであると考えます。

前述しましたように、まちのために動く団体が数多く存在しています。しかし団体は違えども「まちをよくする、ひとを育てる」という目的は共通しています。同じ方向を見ているひとたちとともに地域を想い、ひとが集えていない場所にもスポットを当て、地域と連携した運動を展開していくことが必要だと考えます。そして、その地域で能動的に行動することができるヒトをつくっていきましょう。我々の事業を通じて、ひとの意識が変わる時こそ、JC から学ぶ神髄である『利他の精神』を感じることができる感動の瞬間です。その感動は、ひとりの人生を、より良い方向に変えることとなります。

『地域の感謝の声がメンバー一人ひとりの動く原動力となり、その運動は、いつしか地域創生の希望になると確信します。』

『未来環境づくり』

未来は、子どもたちが創っていきます。しかし子どもたちを取り巻く環境はどうでしょうか。厚生労働省が出す次世代育成支援推奨法の平成 17 年から 10 年の時限立法からみると、大人がつくった今のストレス社会の今の中で教育を受け大人になることを目前にした未来を担う若者が主体的に将来を考える機会がないと言われています。

「自分が参加しても何も変わらない」「知識・能力に自信がない」といった理由で自己肯定感が低く、そのまま大人となり働く世代となっても、意欲的に取り組む意識の低さから、仕事が続かず、また求職活動そのものを行わない若者が内閣府の調査によると約 80 万人と多く存在しています。それは、世界からみても、目先の暗記やテストの点数を取るための教育偏重になっており、大人になれば独立していかなければならない子どもたちの教育環境が希薄化してしまっているのではないかと感じます。そのような中、2020 年度には知識型のセンター試験が廃止され、いかに生きる力を身に付けていくのか、という教育が注目されています。働く理由は人それぞれです。しかし、子を持つ・持たない関係なく国、地域の大人

たちが、未来を創る子どもたちの10年後・20年後を見据えた教育をしていくことが大切なことなのではないでしょうか。

そして、福岡JCが、メンバーの成長の機会だけでなく、まちの人財発掘・人財育成機関としての位置づけで、まちのヒトづくり事業を実施していくことで、まちの大人たちが、時代の変化も踏まえて教育環境を変えていくことが必要です。それが、子どもたちの未来の『希望』になっていくことと確信します。

『ヒトづくり』

これからの時代はJC運動から起こる、ひとの意識変革から起こる波及効果にも重点をおくべきです。それは、JCがもつ人間的豊かな社会を創るべく社会開発(CD)の機会を、メンバーだけではなく市民の皆様にも与えていくことが必要だと考えます。つまり「参加型」の事業から「ヒトづくりのターゲット」を絞って機会を与え続ける運動をしていくことが大切です。そのために、まずは我々JCメンバーが、身近な家族・社員、まちの人を巻き込んでいくことが必要であり、そのことが官・民・JC一体の連携事業となっていくと思います。このことこそが、持続可能な継続事業として価値あるものになると考えます。我々JAYCEEのみが事業のすべてを実施するのではなく、未来のヒトたちをつくる教育機関や民間・行政をさらに巻き込み、事業構築していくことを今後の福岡JCの成すべき目標としていきたいと思います。

JC運動のVISIONは、我々と同じ志をもったアクティブな市民をつくっていくことであると考えます。そして、VISION達成のためのMISSIONこそJCメンバーのみならず未来を創る若者たちに機会を与えることができる指針であると考えます。2019年度から第一期生として始まったヤングJAYCEE・キッズJAYCEE事業は、子どもたちや若者たちに多くの機会を与え、アクティブシチズンを創り出すことができるJCI MISSION・JCI VISIONに、最も根ざした事業へと成長していくと確信しています。

「FUKUOKAのために率先して行動する市民」を発掘するべく「まちのヒトづくり事業」を、このLOMの、このまちの、ヒトづくりの『希望』としていきたいと思います。

『日本人として人として』

日本人は一つの宗教、一つの思想にとらわれることなく、古い価値観と新しい価値観を取捨選択し融合したものを日本固有の「日本のこころ」として、日本人文化を築き上げてきました。しかし、戦後日本の価値観は自虐的歴史観が日本人を束縛し、国民の国家や社会への帰属心は薄れてきました。戦前までの世界に誇るべき歴史や伝統、文化を持ち合わせた日本国。そこに暮らす気品と気高さに溢れた日本人の姿は、世界からも日本の国民性は評価を得ていました。しかし、戦後これまでになかったような国民・社会・外交の問題が噴出し、か

つ問題の分野は多岐にわたり、個別の問題は悪化の一途を辿りました。それぞれの分野に問題の原因があり、またそれら原因の根本には、教育の問題があるのではないのでしょうか。

国家ビジョンなき家庭教育は、個人が社会からの孤立感・疎外感を高め暴走を始めました。親が子を殺す。子が親を殺す等、家族さえもが気心知れないような暗い環境をつくってしまっている日本社会では、人間として、日本人としての謙虚さ・誇りが薄れてきてしまっている現状があるのではないのでしょうか。本来、人の死に思いやりと生前への感謝の心で人生を過ごしていくのが日本人の美德です。そんな義理・人情を大事にした死生観をもった日本人は「謙虚」なヒトであると言えます。

世界から見た、世界が思う日本人の姿は、どういった日本人なのだろうか。時代のどこかで忘れてきたものがあるのではないだろうか。豊かさがゆえに失われていることがあるのではないだろうか。そんな日本人の美德の発信と復興は、近来、国際化の進む中で、日本人の本来あるべき姿の回帰運動になっていくのではないのでしょうか。それもまた、「ひとづくり、まちづくり」のJC運動の基盤になっていくと確信します。

『歩むこと』

福岡 JC には時代が移り変わっても、残していかなければならない伝統と時代に沿って革新していく伝統があります。昨年 2019 年度には、1979 年に正式に研修委員会が管理・指導を始めてから 40 年間続いた伝統の新人会事業「ところてん」を、奉仕・修練・友情を通じた同期の絆を育む場を変えることなく「にゅーめん」へと革新を遂げました。この新しい機会は JC が成すべき事業のやるべきことの根底を精査することにもなり、やるべき事業構築を学ぶことができると確信しています。

また、「仕事」・「家庭」・「JC」とよく言われますが、これらすべてのことを、バランスを取りながら活動するだけでも修練といえます。また、福岡 JC 全メンバーが「にゅーめん」と入会一周年のお祝い事業に触れることで、対象者をはじめ参加する側のメンバーも、JC 活動ができていることが当たり前ではないということを再確認していただきたいと思います。そして、自分自身の原点を素直に見つめ直し、会社・家族に改めて感謝の気持ちが持てるような時間とし、感謝の気持ちを忘れない JC 生活を歩んでほしいと願います。

『縁をつなぐ』

先人達がつくってきた縁こそ JC の財産です。

道に迷った時、パソコンを見つめ頭を悩ませるのではなく、わざわざ足を運びヒアリングに出向くことや、杯を組み交わし膝と膝を付け合わせて語らうことが事業成功への道標となり、足を運んだことで生涯の恩師ができたことを、私も経験させていただきました。

JCI のバッチと名刺を使って、躊躇することなく、ヒトに会いに行く行動は、よりよい事業となる可能性と新たな出会いからネットワークの構築となります。また、先人たちのネットワークのご縁を紐解いて、さらなるメンバーの機会にしていくことが JC で縁をもらってきた JC メンバーの使命ではないでしょうか。

志同じくする仲間と先輩の存在

これまで永く友情を紡いできた姉妹 JC (釜山 JC・下関 JC・香港城市 JC・サウスサイゴン JC) と友好 LOM (北九州 JC・広島 JC) との交流を、この先、単なる杯を交わすだけの交流から、それぞれの地域のために、国のために、共に汗をかく交流事業へと昇華し画期的な巻き込みを起こしていくことを目標にしていくことが、姉妹 JC や友好 JC との交流の意味になっていくのではないのでしょうか。そしてこのことが、日本 JC、JCI の組織に加盟なしには成しえない垣根を超えた、JC でしかできない対外事業のスタイル構築のきっかけとなると願います。

また、福岡 JC は 1500 人を超える特別会員と現役メンバーの青春と成長の機会の宝庫です。先輩方の経験や残してきたものを遠慮することなく活用させていただくことも、これから福岡 JC が成しえていく事業の確立につながっていくと考えます。

本年 2020 年度は、国際アカデミーの開催や日本 JC 委員長の輩出によって、降りかかるミッションから先人たちのネットワークと実績の足跡を感じることがあるでしょう。そしてその機会から、過去から伝わる福岡 JC の存在意義と、今の福岡 JC への期待を感じることとでまた、福岡 JC の威厳を感じることができるでしょう。

『機会と向き合う』

まずは、とにかく参加すること。私も、事業構築に関わることができずに、ただただ、参加することだけからはじめ、濃厚な出会いと機会から、今、ここに立たせていただいています。すべてのメンバーと上手くいくとは言えませんが、そこから生まれる機会も忘れてはいけません。参加していけば必ず他にはない成長の機会となっていくのが JC です。成長の機会を開拓し、その機会を自分の物差しで挑戦する。または別の成長の道を選択する時が多くあることでしょう。

JC の機会の一つに、立場シミュレーションがあるからこそ「長」を目指してみませんか？ 目指すことは、誰にでもできます。「自分だったらこうする！」というイメージをもって手を挙げてみる。挑戦してみる。目指すプロセスが成長になると私は確信しています。一つひとつの役目と責任に失敗を恐れずに挑戦することで、JC は社会で生きていくための実践型トレーニングともなるのです。40 歳で卒業という尊さがあるからこそ機会のその先に、その

度に、自分自身の成長と永遠の友ができる機会と必ずなるのです。

『生涯 JAYCEE』として、『利他の精神』と『個と公の調和』を備えた真の社会企業家としての卒業後の自分自身の成長を目指していくことこそが、JC に在籍し活動している大儀であると強く思います。

『JC の機会に、できるかぎり前向きに捉えて臨むことで、チャンスを生かしていくこと。』

『最後に』

現実での自分の立場と時間を忘れてはいけません。現実の自分があつての JAYCEE です。我々が JC で闘っている間に、家族も会社も一緒に闘っています。だからこそ、大事な時間を割いた分以上に自分自身が成長し、多くの仲間をつくることで、家族や会社に応援されるような環境づくりに努力をしていきましょう。それが時間づくりのトレーニングとなり、自分の人生の土台づくりとなるはずです。

「JC の機会は平等」である。私も事実 7 年間、挑戦する度に、機会を与えられ続けてきたことで強くそう信じます。されど 1 年。たった 1 年。と思つて、自分自身の器を広げる挑戦をしよう。

伝統を重んじつつも歴史に捉われることなく JC しか成せない事業を自由に描く。そして、『メンバーづくりと、ヒトづくりから、まちを動かす。』唯一無二の団体であることを地域に根ざしていく。そして福岡 JC70 周年に開花するべく「希望」を根ざしていきましょう。



理事長
出 田 正 城

President
Masashiro Ideta



直前理事長
岩 木 勇 人

Immediate Past President
Hayato Iwaki



国際アカデミー 実行委員長

安 永 拓一郎
JCI Academy Director
Takuichiro Yasunaga



副理事長
橋 本 久 志

Executive Vice President
Hisashi Hashimoto



副理事長
古 市 剛

Executive Vice President
Tsuyoshi Furuichi



副理事長
彌 登 義 明

Executive Vice President
Yoshiaki Mito



副理事長
井 川 陽 介

Executive Vice President
Yosuke Ikawa



副理事長
山 口 剛 弘

Executive Vice President
Takehiro Yamaguchi



専務理事
蓑 毛 亮

Senior Executive Director
Ryo Minomo



監 事
新 福 貴 法

Auditor
Takanori Shinpuku



監 事
多 賀 谷 兵 馬

Auditor
Hyouma Tagaya



法制顧問
高 原 正 臣

福岡ブロック協議会
LOM 支援グループ副会長
General Legal Counsel
Masaomi Takahara



法制顧問
中 野 雄 将
General Legal Counsel
Kazumasa Nakano



財政顧問
高 木 正太郎
Treasurer
Shotaro Takaki



財政顧問
牧 野 順 二
Treasurer
Jyunji Makino



事務局長
前 川 裕 貴
Secretary-General
Hiroki Maekawa



常務理事
尾 本 勝 征
Managing Director
Katsumasa Omoto



常務理事
古 田 真 幸
Managing Director
Mayuki Furuta



セクレタリー
古 賀 彩 華
Secretary
Sayaka Koga



セクレタリー
竹 野 恵 介
Secretary
Keisuke Takeno



セクレタリー
田 原 義 也
Secretary
Yoshiya Tahara



セクレタリー
保 利 一 晶
Secretary
Kazuaki Hori

国際アカデミー特別委員会

委員会スローガン【挑戦】



委員長 岡 裕也
副委員長 安田 拓司
拡大・総務幹事 浅利 来佳
運営幹事 中之 蘭 匡伸
会計幹事 三浦 隆祐
広報幹事 林 美奈
広報幹事 本 田 正樹
石 崎 崇義
岩 本 天音
木 塚 勝也
田 麦 勇詞
富 田 雄成
西 嶋 泰一
村 井 勇一
森 田 香
安 河 内 剛

●基本方針

福岡JCは、これまで多くの大会を開催してきました。1970年JCI福岡カンファレンス、1989年日本青年会議所全国大会、2004年JCI世界会議福岡大会。その後福岡JCは、対外との関わりを強化するという活動よりもLOMの強化を進め、福岡市と共にまちづくりとひとづくりを重点的に活動することが長く続いてきました。

そして2020年度、福岡JCが開催地LOMとなり国際アカデミーを実施する運びとなりました。国際アカデミーとは、日本青年会議所32年の伝統ある事業の一つで、世界約80カ国からNOM会頭候補者が、日本青年会議所メンバー約100名と共に5日間寝食をともにする一大事業です。「相互理解を深めること」・「トレーニングの機会を与えて明日のリーダーを育てること」・「JCIをより良く発展させること」・「恒久的かつ永久の世界平和確立に貢献すること」、これら4つを目的として明日のリーダーを育てる事業です。この国際アカデミーを通じ、LOMメンバーに普段経験のできない多くの機会を創出します。そして、国際アカデミー実行委員会として関わる9委員会を束ね、実行委員長を中心とした組織運営を行っていき、大会を成功へと導いていくだけではなく、福岡ブロックからの支援をいただきながら過去最高の国際アカデミーを目指します。

公開例会ではJCIが世界平和を達成するためにどのような活動をしているのか福岡市民の皆様にも知っていただき、今後の活動にご賛同いただけるような公開例会を行います。

最後に、国際アカデミーを通じ、委員会メンバーは元よりLOMメンバー全員で福岡の素晴らしさを再考し、まちの発展に何が必要かを協議し、世界中の仲間と友情を育む事業を実現いたします。そしてどんな時でも「笑顔」を忘れることなく、主体的に行動する委員会運営を目指して活動していきます。

●事業計画

◇国際アカデミーにおける開催地プログラムの企画・実施

〈目的〉福岡の文化に触れていただくことで、国内外の志の高いメンバー同士の相互理解と連帯を深める機会へと繋げていくこと。

〈方法〉福岡市の歴史背景や福岡青年会議所が行ってきた運動が、どのように地域に根付いているのかを体感してもらう。

◇国際アカデミーにおける特別モジュールの企画・実施

〈目的〉グローバルネットワークワーとしてグローバリズムを学び、国際社会を牽引するリーダービジョンと資質を育成すること。

〈方法〉グローバルに活躍をされている講師による基調講演の実施。

◇国際アカデミーにおける食文化体験プログラムの企画・実施

〈目的〉国内外のデリゲイツに福岡の食文化を堪能していただくこと。

〈方法〉福岡ブロック協議会と共に、各地の名産品を駆使した食体験ができるブースを22ブース提供する。

◇公開例会の実施（10月）

〈目的〉福岡JCメンバーは基より福岡市民の方々にJCIが行っている活動を知ってもらい、JC活動にご賛同いただくこと。

〈方法〉JCI役員に講師としてお招きし、貧困問題にどのように青年会議所が取り組みをしているのかを理解してもらう講演会の実施。

◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉会員拡大においては、LOMに新しい価値観をもたらし、LOMの発展に繋がるべく視点でその運動に取り組む。仮入会者への指導・研修においては、「気付きや学び」を動機付けとし、「利他の精神」で率先垂範できる仲間を育成する。

〈方法〉会員拡大を実施するにあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識を持ち、委員会内での情報発信・共有を随時行う。委員会においては委員長のリーダーシップのもと、拡大・総務幹事がその推進役を担う。仮入会者の研修においては、会員自ら仮入会者との接点をつくる努力をし、社会や仲間のために率先して行動する姿を示す中で、JCの原理原則、福岡JCの伝統や精神・魅力を伝えていく。

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2019年					
11月		釜山JC周年（トリオ会議）25-27日	6月		広島JC定期交歓会 オールメンバーの集い ASPAC（カンボジア） 香港シティJC周年
12月			7月	□討議□協議（10月度公開例会計画） 国際アカデミー 開催地プログラム実施 国際アカデミー 特別モジュール実施 国際アカデミー 食文化体験プログラム実施	国際アカデミー サマコン（横浜）18-19日
2020年	□討議□協議□協議□協議（国際アカデミー 開催地プログラム事業計画） □討議□協議□協議□協議（国際アカデミー 特別モジュール事業計画） □討議□協議□協議□協議（国際アカデミー 食文化体験プログラム事業計画）	京都会議16-19日	8月	□討議□審議（10月度公開例会計画）	九州地区大会（出水）
1月			9月	□討議□審議□協議□審議（国際アカデミー 開催地プログラム事業報告） □討議□審議□協議□審議（国際アカデミー 特別モジュール事業報告） □討議□審議□協議□審議（国際アカデミー 食文化体験プログラム事業報告）	全国大会（札幌）24-27日
2月		第3エリア合同例会	10月		10月度公開例会実施
3月			11月	□討議□審議（10月度公開例会報告）	世界会議（横浜）3-7日
4月		北九州JC定期交歓会	12月		卒業生を送る夕べ
5月		福岡ブロック大会（むびき） 下関JC周年（トリオ会議）			



室 長 西 嶋 聖

●基本方針

転換期を迎える福岡JCにおいてFUKUOKAの多岐にわたる様々な分野の問題点をしっかりと理解していかなければなりません。それらの原因の根本にある教育問題に目を向け、「日本人の強みとは何なのか。」「世界から見た日本人とはどのように思われているのか。」今の日本で忘れ去られているもの。残していかないといけない日本人としての魂、誇りを発信していくことが必要となってきます。

日本のタカラ室では、日本人として築き上げてきた、日本固有の「日本のこころ」を大切に持ちつつも、それらの原因の根本にある教育問題、日本人の美徳に目を向け事業を進めてまいります。

日本人として薄れてきてしまっている謙虚さ・誇りを本年行われる「国際アカデミー」事業等を通じて世界に、地域に、子どもたちに発信していくことが「まちづくり、ひとづくり」のJC運動の基盤になっていくと確信し事業を行ってまいります。

日本人ブランド発信委員会

委員会スローガン【継往開来】



委員長 鍋山健吾
副委員長 佐伯公大
拡大・総括幹事 斎藤健吾
運営幹事 近永征也
会計幹事 山野晋
広報幹事 加地亮太
池田聡
管納啓文
下川浩平
東堂美由紀
宮崎典子
安河内治伸
吉屋貴志

●基本方針

海と山に囲まれ、四季折々の豊かな自然に恵まれた国・日本。私たち日本人は、昔より続くこのすばらしい環境の中で、先祖代々のいとなみにより、独自の文化と繁栄を築いてきました。先の大戦ではそのすべてを失う甚大な被害を受けながらも、戦後日本人の多大なる努力と貢献により国土の再興がなされ、経済的には世界有数の豊かな生活を享受できる国になりました。

しかしながら、経済的繁栄の影で、欧米文化との融合により物質文明を追求するあまり、かけがえのない「日本人のこころ」という精神が薄れ、日本は国の存続も危ぶまれるような状況にあります。

勤勉で他へのおもいやりを美德とする国民性によって繁栄してきた日本から、いま「真の日本人」を改めて考え、謙虚さや奉仕の精神、人はもとよりあらゆる生命や自然への深い愛情を育むことが、日本の現状のみならず国際化が進む今、未来への歩みであると考えます。

しかし、本来は我々自身が自分たちのルーツにどのような歴史があり、何を大切に生きてきたかということが誇りであり、皆それを大切に想うからこそ、自信を持って自分の国の素晴らしさや「こころ」を持ち、世界の善きものと調和し尊重し合って共存共栄していくことができるのです。

日本人ブランド発信委員会では、「日本のこころ」である日本の歴史や精神文化、芸術文化について改めて学び理解することで、本来の日本人とは何かを考え、今の時代に即した日本人像を追求し、まちづくり・ひとづくりの基盤となれるよう事業を行って参ります。そして事業やJC活動を通じて、日本はじめJCの歴史や伝統を知り、メンバー一人ひとりが主役となり、機会を活かし成長できる委員会運営を目指します。

●事業計画

◇日本人の魅力に関する調査・研究及びその発信に関する国際アカデミー開催地プログラムの企画・実施

〈目的〉日本の文化や歴史に触れていただくことで、日本のこころを知ってもらい、日本人の魅力を発信すること。

〈方法〉講演や実演を通じ「日本のこころ」を学び、武士道を通して日本の文化を体感してもらう。

◇世界から見た日本人の魅力に関する調査・研究及びその発信に関する事業の企画・実施

〈目的〉日本の将来を担う人材が、夢や希望を抱き続けることができるよう、本来の日本への理解を深め、日本人らしさやあるべき姿を追求すること。

〈方法〉日本の心、美德や精神といった日本人の魅力を調査・研究し伝える。

◇茶道同好会の支援

〈目的〉シニアメンバーと現役メンバーが、茶道同好会を通じて交流することで親睦を深めること。

〈方法〉茶道同好会と調整を図り、会の運営の補助を行う。

◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉会員拡大においては、LOMに新しい価値観をもたらし、LOMの発展に繋がるべく視点でその運動に取り組む。仮入会者への指導・研修においては、「気付きや学び」を動機付けとし、「利他の精神」で率先垂範できる仲間を育成する。

〈方法〉会員拡大を実施するにあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識を持ち、委員会内での情報発信・共有を随時行う。委員会においては委員長のリーダーシップのもと、拡大・総括幹事がその推進役を担う。仮入会者の研修においては、会員自ら仮入会者との接点をつくる努力をし、社会や仲間のために率先して行動する姿を示す中で、JCの原理原則、福岡JCの伝統や精神・魅力を伝えていく。

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2019年 11月		釜山JC周年（トリオ会議）25-27日	6月	日本人ブランド発信委員会事業実施	広島JC定期交歓会 オールメンバーの集い ASPAC（カンボジア） 香港シティJC周年
12月			7月	国際アカデミー 開催地プログラム実施	国際アカデミー サマコン（横浜）18-19日 茶道同好会
2020年 1月	□討議□協議□協議□協議（事業計画） □討議□協議□協議□協議（開催地プログラム事業計画）	京都会議16-19日	8月		九州地区大会（出水）
2月	□討議□審議□協議□審議（開催地プログラム事業計画）	第3エリア合同例会	9月	□討議□協議□協議□協議（事業報告） □討議□協議□協議□協議（開催地プログラム事業報告）	全国大会（札幌）24-27日
3月			10月		茶道同好会
4月		北九州JC定期交歓会	11月		世界会議（横浜）3-7日
5月		福岡ブロック大会（ひびき） 下関JC周年（トリオ会議）	12月		卒業生を送る夕べ

キッズアカデミー委員会

委員会スローガン【未来（あした）のために】



委員長 中原 壮一郎
副委員長 伊藤 慎吾
拡大・総括幹事 藤 浩史
運営幹事 古野 稔幸
会計幹事 松本 大佑
広報幹事 河野 将祐
大場 康祐
草野 雅昭
小泉 裕紀
橋本 太一
村岡 剛
本園 祐輔
和 大

●基本方針

我が国は現在、人口減少、超高齢社会という社会課題を向かえる中、福岡市は人口増加や若者が締める人口の割合も高く、更なる発展の可能性を秘めています。そんな中、子どもを取り巻く教育環境は、大きな変革期を迎えています。2020年より新学習指導要領により外国語を学ぶ機会が一新され、現在の5、6年生対象で行われている外国語活動を3、4年生が行うこととなり、5、6年生は英語が正式教科になります。また、プログラミング教育が必須となります。更に、大学センター試験も廃止され、主体的に、能動的な教育へと改革が行われます。

未来を担う子どもたちは、社会のタカラであります。豊かな人間性を育むことによって、数十年後に広い視野を持ち、多様な価値観の基、社会を牽引していく大切な人材であります。

当委員会では、昨年より行ってきたキッズJAYCEEを継承し、第二期生の募集を行います。我々JAYCEEが行う「明るい豊かな社会の実現」を、国際アカデミーの機会を活用し、キッズJAYCEEに体感してもらうことにより国際の機会を提供していきます。

そして、開催地LOMとして国際アカデミーを実施できる機会を誇りとし、これまでの学校訪問プログラムとは全く違う、「これぞ福岡JC」と言われるような設営を行うことにより、海外デリゲイツに、日本の「OMOTENASHI」を感じてもらいます。同時に、受入れ小学校の児童、先生、保護者にも「日本のこころ」を大切にするを考えさせつつも、多くの経験を提供していきます。

委員会メンバーには、事業を通じて同じ目標に向かって取り組んで挑戦していく中で、本気で語り合い、メンバー自身の成長へと繋げ、一生の絆が結んでいける委員会運営を行って参ります。

●事業計画

◇国際アカデミーに関する学校訪問プログラムの企画・実施

〈目的〉 自国との違いを感じていただき相互理解を深め、国際人の育成に繋げていくこと。

〈方法〉 「OMOTENASHI」の心で、海外デリゲイツと日本の小学生の交流を図る機会を提供する。

◇キッズJAYCEE第二期生の募集と育成に関する事業の企画・実施

〈目的〉 未来を創っていく子ども達が、数十年後に個性を磨き続けていける大人へと成れる礎を築くこと。

〈方法〉 キッズJAYCEE第二期生を募集し、成長の機会の提供を実施する。

◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉 会員拡大においては、LOMに新しい価値観をもたらし、LOMの発展に繋がるべく視点でその運動に取り組む。仮入会者への指導・研修においては、「気付きや学び」を動機付けとし、「利他の精神」で率先垂範できる仲間を育成する。

〈方法〉 会員拡大を実施するにあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識を持ち、委員会内での情報発信・共有を随時行う。委員会においては委員長のリダーシップのもと、拡大・総括幹事がその推進役を担う。仮入会者の研修においては、会員自ら仮入会者との接点をつくる努力をし、社会や仲間のために率先して行動する姿を示す中で、JCの原理原則、福岡JCの伝統や精神・魅力を伝えていく。

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2019年 11月		釜山JC周年（トリオ会議）25-27日	6月		広島JC定期交歓会 オールメンバーの集い ASPAC（カンボジア） 香港シティJC周年
12月			7月	キッズアカデミー委員会事業実施 国際アカデミー 学校訪問プログラム実施	国際アカデミー サマコン（横浜）18-19日
2020年 1月	□討議□協議□協議□協議（事業計画） □討議□協議□協議□協議（学校訪問プログラム事業計画）	京都会議16-19日	8月		九州地区大会（出水）
2月	□討議□審議□協議□審議（事業計画） □討議□審議□協議□審議（学校訪問プログラム事業計画）	第3エリア合同例会	9月	□討議□審議□協議□審議（学校訪問プログラム事業報告）	全国大会（札幌）24-27日
3月			10月	□討議□審議□協議□審議（事業報告）	
4月		北九州JC定期交歓会	11月		世界会議（横浜）3-7日
5月		福岡ブロック大会（ひびき） 下関JC周年（トリオ会議）	12月		卒業生を送る夕べ



室 長 戸 嶋 太 一

●基本方針

福岡青年会議所は67年という歴史の中で、FUKUOKAのまちの未来を描くと同時に、メンバーの自己成長を実現し、「まちづくり」と「ひとづくり」の両輪で活動を行ってきた団体です。そして福岡JCしかなかった時代から、福岡JCもある時代に変化してきた現在、この両輪をさらに大きなものにし、福岡JCの存在感を高めていくことが必要不可欠であります。

未来のカタチ室では、昨年引き続きIR(統合型リゾート)について、さらに深くそしてより具体的に発信することによりインバウンドを通じたFUKUOKAの可能性を発信する「まちづくり」に関する活動、JC運動の根本であるJCI Mission・JCI Visionの浸透を通じ、メンバーならびに未来ある若者をはじめとするこのまちの人々へ意識変革という波及効果をもたらす「ひとづくり」に関する活動、その両輪で事業を展開してまいります。

福岡JCでしか成しえない事業を通じてまちを動かしていくことで、このFUKUOKAのまちの明るく豊かな「未来のカタチ」をこの1年を通じてしっかりと発信していき、福岡JCの存在感を高める活動を行ってまいります。

FUKUOKAビジネス発信委員会

委員会スローガン【可能性への挑戦～挑戦する楽しさと喜びを～】



委員長 金海安
副委員長 本村大
拡大・総括幹事 浜崎大
運営幹事 二塚大
会計幹事 坂田裕
広報幹事 右近将
岡部英
城戸崇
谷川進
豊島知
古澤正
森井大
吉岡寛

●基本方針

福岡市は人口増加数増加率全国1位、クルーズ船寄港回数4年連続日本一と近年著しく発展傾向にあります。空港から市の中心部まで地下鉄でわずか10分足らずでアクセスすることができる都市は世界中の都市を見渡しても福岡だけです。さらに福岡市はアジアのリーダー都市の実現に向けて福岡の成長を牽引する観光・MICE・都市部機能強化の推進と企業を呼び込むスタートアップ都市づくりを掲げ、経済的側面での成長も進めています。しかしながら、向こう15年を考えたとき、日本全体の傾向と同じく、人口減少や生産人口割合の著しい低下にともなう高齢化社会の到来は避けられない現実があります。成長を続けている福岡市だからこそ、この高齢化社会の社会保障維持を継続するためにも、福岡の恵まれた環境を生かした新たな成長エンジンの検討と創出が必要です。

福岡市の経済政策により天神や博多の再開発は進んでおり、国際都市への発展が加速していきます。MICEに関してもウォーターフロント地区に二期展示場が出来る計画が動き出し、世界的な会議の実施も現実味を帯びてきました。しかし、開発を行う魅力を高めるためには更なる福岡の街の価値創造が求められています。福岡市が世界の都市に名を連ねるには、潜在能力の高い食文化、発展し続ける経済に加え、世界的会議に実施を実現するべく、ショーやカジノを含むエンターテインメントの融合による数千億の経済効果を生み出すインバウンド政策としてIR（カジノを含む統合型リゾート）誘致が大きく注目されています。

当委員会ではIR誘致をはじめとしたインバウンド政策に関わる調査研究を行い、IR誘致に対する今後のあり方を広く発信します。また、福岡のまちの人が持つIR＝カジノといったマイナスイメージを含めたデメリットと、IRがもたらすメリットをしっかりと伝え、正しく理解していただくために広く対外に発信します。JCという立場だからこそ、昨年「IRを九州に」とまちに提言したように行動に移せる最大の強みを生かし、FUKUOKAの未来のあり方を青年らしい視点で発信します。

そして、委員会メンバーが公開例会や事業を通じて、同じ時間を共有することで深い絆が生まれ、1年間一分一秒無駄にせずに委員会メンバー全員が成長したと実感できるような1年にします。その成長と深い絆こそが未来への懸け橋となるような委員会運営を行います。

●事業計画

◇国際アカデミーに関するエクスカッションの企画・実施に関する事項

〈目的〉国内外のデレゲイツが体験を通じて、JCの仲間との相互理解を深めること。

〈方法〉福岡第3エリアとともに、福岡県ならではの文化の魅力と福岡県が世界に誇れるビジネスを知ってもらう為のエクスカッションの実施。

◇インバウンドを通じたFUKUOKAの可能性の立案に関する事業の企画・実施

〈目的〉未来の福岡の発展に寄与する新しい福岡の原動力の発掘をすること。

〈方法〉国内外を問わず他都市事例研究、有識者へのヒアリングを行う。また過去事業のIR提言事業の行政と各経済団体への波及効果を調査し、具体的なインバウンド政策を示す事業の実施。

◇公開例会の企画・実施（4月）

〈目的〉IR（統合型リゾート）誘致等のインバウンド政策に対する対内・外の意識の醸成を行うこと。

〈方法〉インバウンド政策に精通した有識者を講師として招き、IRを含むインバウンドに関する正しい知識と魅力についての講演。

◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉会員拡大においては、LOMに新しい価値観をもたらし、LOMの発展に繋がるべく視点でその運動に取り組む。仮入会者への指導・研修においては、「気付きや学び」を動機付けとし、「利他の精神」で率先垂範できる仲間を育成する。

〈方法〉会員拡大を実施するにあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識を持ち、委員会内での情報発信・共有を随時行う。委員会においては委員長のリーダーシップのもと、拡大・総括幹事がその推進役を担う。仮入会者の研修においては、会員自ら仮入会者との接点をつくる努力をし、社会や仲間のために率先して行動する姿を示す中で、JCの原理原則、福岡JCの伝統や精神・魅力を伝えていく。

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2019年					
11月		釜山JC周年（トリオ会議）25-27日	6月	□討議□審議（4月度講師公開例会事業報告）	広島JC定期交歓会 オールメンバーの集い ASPAC（カンボジア） 香港シティJC周年
12月			7月	国際アカデミー エクスカッション実施 □討議□審議□協議□審議（事業報告）	国際アカデミー サマコン（横浜）18-19日
2020年					
1月	□討議□協議□協議□協議（エクスカッション計画） □討議□協議（4月度講師公開例会計画） □討議□協議□協議□協議（事業計画）	京都会議16-19日	8月		九州地区大会（出水）
2月	□討議□審議□協議□審議（エクスカッション計画） □討議□審議□協議□審議（事業計画） □討議□審議（4月度講師公開例会計画）	第3エリア合同例会	9月	□討議□審議□協議□審議（エクスカッション事業報告）	全国大会（札幌）24-27日
3月			10月		
4月	4月度公開例会実施	北九州JC定期交歓会	11月		世界会議（横浜）3-7日
5月	FUKUOKAビジネス発信委員会事業実施	福岡ブロック大会（ひびき） 下関JC周年（トリオ会議）	12月		卒業生を送る夕べ

JCIミッション・ビジョン推進委員会

委員会スローガン【生涯の出会いを】



委員長 榎本 淳一
副委員長 阿部 健太郎
拡大・総括幹事 藤木 慎一
運営幹事 千代 和明
会計幹事 伊達 高志郎
広報幹事 小林 大介
上原 慶介
甲木 正孝
黒川 悠子
後藤 雄治
白石 悠祐
高田 周平
鳥巢 栄三郎

●基本方針

福岡JCは戦後間もない時代から67年間という長い歴史の中で事業を通して、福岡に貢献し、「まちの発展」と「福岡JCメンバーの成長＝ひとづくり」に繋げてきました。しかし、現在において福岡にはJC以外にも親睦団体や慈善団体が多数存在し、様々なイベントなどでまちを盛り上げてくれております。今までのFUKUOKAのために動く団体が、福岡JCしかなかった時代から、福岡JCもある時代へと変化をいたしました。

これから我々福岡JCが存在感を示しFUKUOKAの発展に寄与し続けていくためには、JCにしかできない「ひとづくり」に注力し、他団体と一線を画しながら新たな形で貢献していかなければなりません。

当委員会ではこれを好機にJC運動の根本である「JCI Vision＝若き能動的な市民の主導的なグローバルネットワークになること」、そしてVision達成のための「JCI Mission＝未来を創る、まちの若者たちに発展・成長の機会を与えること」の理念の下、JC運動から起こる、人の意識変革の波及効果に重点をおいた事業を実施し、JCがもつ豊かな社会を創るべく社会開発（CD）の機会を、メンバーだけではなく、市民の皆様、特に未来ある若者に対して従来の「参加型」から、市民一人ひとりがまちづくりの担い手ということを意識付け、ひとづくりのターゲットとして機会を与える活動を行い、「参画型」へと移行することで、まちのために動く能動的な市民を作ることを目指していきます。そして未来ある若者に我々と同じような志を持ってもらうことでよりよいFUKUOKAのまちづくりに貢献していくことを目指していきます。

最後に委員会メンバー全員がJCI Mission・JCI Visionを理解し、国際アカデミーという機会とひとづくりを行う事業を通してメンバー同士が絆を深めながらまちの未来のために率先して行動していくことで、これからの福岡JC、FUKUOKAのまちを担う人財を育て、互いに成長できる委員会運営を実施いたします。

●事業計画

◇国際アカデミーに関するウェルカムパーティ（国内外）の企画・実行

＜目的＞国内外のデリゲイツが福岡のおもてなしの魅力を感じていただくこと。

＜方法＞福岡ならではのおもてなしを設えたウェルカムパーティの実施。

◇ヤングJAYCEE第二期生の募集と育成に関する事業の企画・実施

＜目的＞未来のFUKUOKAの担い手となる若者と協同で事業を行うことにより、まち作りに率先して動く気持ちや気概を持つキッカケを与える。

＜方法＞ヤングJAYCEE第二期生を募集し、若者たちと協同で事業を行う。

◇会員拡大・研修に関する事項

＜目的＞会員拡大においては、LOMに新しい価値観をもたらし、LOMの発展に繋がるべく視点でその運動に取り組む。仮入会者への指導・研修においては、「気付きや学び」を動機付けとし、「利他の精神」で率先垂範できる仲間を育成する。

＜方法＞会員拡大を実施するにあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識を持ち、委員会内での情報発信・共有を随時行う。委員会においては委員長のリーダーシップのもと、拡大・総括幹事がその推進役を担う。仮入会者の研修においては、会員自ら仮入会者との接点をつくる努力をし、社会や仲間のために率先して行動する姿を示す中で、JCの原理原則、福岡JCの伝統や精神・魅力を伝えていく。

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2019年 11月		釜山JC周年（トリオ会議）25-27日	6月		広島JC定期交歓会 オールメンバーの集い ASPAC（カンボジア） 香港シティJC周年
12月			7月	JCIミッション・ビジョン委員会事業実施 国際アカデミー ウェルカムパーティ実施	国際アカデミー サマコン（横浜）18-19日
2020年 1月	□討議□協議□協議□協議（ウェルカムパーティ計画）	京都会議16-19日	8月		九州地区大会（出水）
2月	□討議□審議□協議□審議（ウェルカムパーティ計画） □討議□協議□協議□協議（事業計画）	第3エリア合同例会	9月	□討議□審議□協議□審議（ウェルカムパーティ事業報告）	全国大会（札幌）24-27日
3月	□討議□審議□協議□審議（事業計画）		10月	□討議□審議□協議□審議（事業報告）	
4月	ヤングJAYCEE第二期生募集開始	北九州JC定期交歓会	11月		世界会議（横浜）3-7日
5月		福岡ブロック大会（ひびき） 下関JC周年（トリオ会議）	12月		卒業生を送る夕べ



室 長 吉 田 悠 二

●基本方針

未来を担う子どもたちを取り巻く環境は、今急速に変わろうとしています。これまでの知識型の教育から、自分で考え、自分で未来を切り開く力を養わなければならない時代へと変化をしようとしています。今までの教育は“みんな同じ”を大事にして個性を消してしまう恐れがありました。果たして、私たち親世代がこの変化に対応する準備はできているでしょうか。また、子どもたちが自分たちの未来を考えるきっかけをしっかりと与えることができているでしょうか。

子どもが育つ環境を整えることは、それを取り巻く大人たち、つまり親や学校、地域社会の役割です。我々大人が、子どもたちの未来のために今しなければならないこと、子どもたちに生きる力を与えることが必要となってきます。

「コドモの未来創造室」は子どもたちの未来のために、そしてわたしたちのまちFUKUOKAの未来のために、子どもたちが未来を創造するだけでワクワクするような福岡JCならではの事業を構築し、実施します。

また、福岡で初開催となる国際アカデミーにおいては、ウェルカムパーティー、ホームステイ、フェアウェルパーティーと3つの主要なセクションを担当します。入口から出口まで真心を込めた設えを施し、中身のホームステイでは地域社会であるホストファミリーと連携を図ります。

子 育 て 環 境 創 造 委 員 会

委員会スローガン【隼より始める】



●基本方針

子どもたちは次の世を創り、そして担っていく存在であり、子どもたちの成長は我が国の未来に直結していくものであります。団塊ジュニアと呼ばれたベビーブームを最後に出生数が年々減少していく中、2018年には91万人、2019年には90万人を割れることも予想されています。この貴重な日本の子どもたちをどう育てていくのかということはこの先の大きな課題です。昨今、取り沙汰されているいじめ問題・虐待問題は大きな懸念ではありますが、それは表層に過ぎず、子育て環境を考える中で、教育環境、家庭の環境、社会の環境、多岐にわたる項目にその要点が存在しているものと考えます。

委員会としてまずは、現状の子育てを取り巻く諸問題のデータや、その現場で日々向き合っておられる方々からヒアリングを行う等、しっかりと調査研究を行います。また、どのようなアプローチが子育て環境の改善につながっていくのかなど、委員会を立てた仮説に基づいた事業の実施が必要だと考えます。

福岡JCとして、子を持つひとりの親として、福岡で育てている子どもたちの未来が明るいものとなるようにアクションを起こしていきます。

また、福岡で初めて開催される国際アカデミーに関しましては、ホームステイとフェアウェルパーティーの設営を担当いたします。このめったにない機会を使って「福岡の家庭」にいかにして国際交流のインパクトを与えていくのか。ここにテーマをもって取り組んでいきます。

最後に、足元部分、土台部分に対していかに労力を賭していくのかというのは、限られた時間の中でやっているJCをもっとも効果的に自分へ還元できる方法であると考えます。1年間という期間の中で、数多くの経験を得ることができ、いかに友情を育み、各々が自分の器を広げていけるか、そして、今当たり前にやっていることは、誰かの創った土台の中でできているという認識をもった時、感謝の有り様や次の行動に大きな変化をもたらすものです。JCでやったことは実社会に生かせるものばかりで、それを信じて1年間を果実あるものにしていきます。

●事業計画

◇国際アカデミーに関するホームステイの運営に関する事項

〈目的〉 国外に対して福岡の魅力の発信に加え、市民に対しては国際感覚の醸成に資すること。

〈方法〉 海外デリゲイツが日本人の実生活を体験できるようなホームステイの実施。

◇国際アカデミーのフェアウェルパーティーの企画・実施に関する事項

〈目的〉 対内に対し国際の意識を醸成するとともに、対外へ福岡の魅力を発信すること。

〈方法〉 海外デリゲイツと市民との一期一会を、より一層印象づけることができる設えの提供。

◇日本と世界の子育て環境に関する調査・研究及びその発信に関する事業の企画・実施に関する事項

〈目的〉 現状の子育てに関する問題点を明確にし、その改善を社会に対し発信し改善していく一助となること。

〈方法〉 子どもを取り巻く大人たちに対し、子を育ててに関しての熟思をする機会の提供。

◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉 会員拡大においては、LOMに新しい価値観をもたらし、LOMの発展に繋がるべく視点でその運動に取り組む。仮入会者への指導・研修においては、「気付きや学び」を動機付けとし、「利他の精神」で率先垂範できる仲間を育成する。

〈方法〉 会員拡大を実施するにあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識を持ち、委員会内での情報発信・共有を随時行う。委員会においては委員長のリダーシップのもと、拡大・総括幹事がその推進役を担う。仮入会者の研修においては、会員自ら仮入会者との接点をつくる努力をし、社会や仲間のために率先して行動する姿を示す中で、JCの原理原則、福岡JCの伝統や精神・魅力を伝えていく。

委員長 堤 祐一 郎
副委員長 石 川 眞 弥
拡大・総括幹事 和 田 義 一
運営幹事 尾 花 一 樹
会計幹事 原 誠 一 郎
広報幹事 安 部 亮 二
岩 本 壮 一郎
大 場 康 弘
城 戸 一 寿
庄 島 健 泰
馬 場 幸 憲
正 岡 憲 憲

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2019年 11月		釜山JC周年（トリオ会議）25-27日	6月		広島JC定期交歓会 オールメンバーの集い ASPAC（カンボジア） 香港シティJC周年
12月			7月	国際アカデミー フェアウェルパーティー実施	国際アカデミー サマコン（横浜）18-19日
2020年 1月	□討議□協議□協議□協議（ホームステイ計画） □討議□協議□協議□協議（フェアウェルパーティー計画） □討議□協議□協議□協議（こども環境創造委員会事業計画） ホストファミリー募集開始	京都会議16-19日	8月		九州地区大会（出水）
2月	□討議□審議□協議□審議（ホームステイ計画） □討議□審議□協議□審議（フェアウェルパーティー計画） □討議□審議□協議□審議（こども環境創造委員会事業計画）	第3エリア合同例会	9月	□討議□審議□協議□審議（フェアウェルパーティー事業報告）	全国大会（札幌）24-27日
3月			10月	□討議□審議□協議□審議（こども環境創造委員会事業報告）	
4月		北九州JC定期交歓会	11月		世界会議（横浜）3-7日
5月	こども環境創造委員会事業実施	福岡ブロック大会（ひびき） 下関JC周年（トリオ会議）	12月		卒業生を送る夕べ

こども環境創造委員会

委員会スローガン【本気で ENJOY～どうせやるなら本気でやろう。本気でやるからこそ楽しめる～】

●基本方針

子どもは国の宝。次代を担う子どもたちの成長こそがこの国の成長そのもののなのです。しかし内閣府の調査によると約80万人が、求職活動を行わない、自分に自信がない、やりたいことが見つからない、働く意味が分からない等の理由で、いわゆるニート状態にあります。

刻々と技術が進歩する時代の中で、新しく生まれる職業もあれば無くなる職業があると取り沙汰されています。そこで、そもそも「働く」とは何なのか、「生きる」とは何なのか、ということに着目し、自分自身の将来を思い描いていく過程の中で、理想と現実の狭間で揺れ動く世代の中高生を対象とし、現実社会に渦巻く問題の調査研究を綿密に行い、子どもたちが将来、意欲的に自分自身の未来を「人のために」「人を楽しませるために」「人に感謝されるために」生きていきたい、働きたいと感じてもらえるような事業構築をしていきます。

また、福岡で初めて開催される国際アカデミーにおいては海外デリゲイツのみのウエルカムパーティーには日本らしさを盛り込み、海外デリゲイツには日本の文化に触れて喜んでもらえるような設営をしていきます。

最後に、限られた時間の中で今しかできないこの一瞬のJCをメンバー一人ひとりとってかけがえのないものとなるように一致団結し、目標に本気で向き合うからこそ各々が成長を実感でき、一生の友となれるような委員会運営を行なっていきます。

●事業計画

◇国際アカデミーに関するウエルカムパーティー（国外）の企画・実施

＜目的＞ 海外デリゲイツの来福の歓迎及び国際アカデミーに対する機運を向上させること。

＜方法＞ 言語の壁を越えたコミュニケーションツールとして音楽を用い、五感を通して楽しみながら交流が図れる空間の創出。

◇子どもたちに自分の未来を考えるきっかけを与える事業の企画・実施

＜目的＞ 世界中どこを探しても見つからない、たった一人の『自分』という可能性と働くということを感じ、自分の意思で目標を持ち、自分の人生を歩み、人のために行動することができる人となるきっかけを与えること。

＜方法＞ 「働く」目的の三段階（不自由さの解決から働くことが始まり、帰属への欲求、そして自己実現へと展開）をテーマに、全2回の事業の実施。

◇会員拡大・研修に関する事項

＜目的＞ 会員拡大においては、LOMに新しい価値観をもたらし、LOMの発展に繋がるべく視点でその運動に取り組む。仮入会者への指導・研修においては、「気付きや学び」を動機付けとし、「利他の精神」で率先垂範できる仲間を育成する。

＜方法＞ 会員拡大を実施するにあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識を持ち、委員会内での情報発信・共有を随時行う。委員会においては委員長のリーダーシップのもと、拡大・総括幹事がその推進役を担う。仮入会者の研修においては、会員自ら仮入会者との接点をつくる努力をし、社会や仲間のために率先して行動する姿を示す中で、JCの原理原則、福岡JCの伝統や精神・魅力を伝えていく。

委員長 岩元一 晃
副委員長 原島卓
拡大・総括幹事 福竹真
運営幹事 本亮
会計幹事 辻一
広報幹事 高見慎
秋嶋優
岩吉智
末切拓
徳若憲
平本光
吉野正
村幸一

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2019年 11月		釜山JC周年（トリオ会議）25-27日	6月	こども環境創造委員会第1回事業実施	広島JC定期交歓会 オールメンバーの集い ASPAC（カンボジア） 香港シティJC周年
12月	□討議□協議□協議□協議（ウエルカムパーティー計画）		7月	こども環境創造委員会第2回事業実施 国際アカデミー ウェルカムパーティー実施	国際アカデミー サマコン（横浜）18-19日
2020年 1月	□討議□審議□協議□審議（ウエルカムパーティー計画）	京都会議16-19日	8月	こども環境創造委員会第3回事業実施	九州地区大会（出水）
2月	□討議□協議□協議□協議（事業計画）	第3エリア合同例会	9月	□討議□審議□協議□審議（ウエルカムパーティー事業報告）	全国大会（札幌）24-27日
3月	□討議□審議□協議□審議（事業計画）		10月	□討議□審議□協議□審議（事業報告）	
4月		北九州JC定期交歓会	11月		世界会議（横浜）3-7日
5月		福岡ブロック大会（ひびき） 下関JC周年（トリオ会議）	12月		卒業生を送る夕べ



室 長 加 地 大 希

●基本方針

近年、福岡には同世代の親睦団体、慈善団体が数多く存在し、まちのために動く団体が「JCしかない時代からJCもある時代」と言われる状況にあり、改めて福岡JCの相対的影響力の低下を真摯に受け止め、運動の在り方、組織の在り方を見つめ直す必要があります。

一方、1953年に設立され、先輩たちの熱い情熱と勇気によって紡がれてきた67年という運動の歴史が確かなものであるからこそ、何かやってくれるかもしれないと、まちに期待されているのも事実です。

だからこそ、我々の本来あるべき姿である黒子的立場で、今まで以上に他団体や行政・地域と連携して運動を展開することが、福岡JCの存在意義を確立することに繋がり、まちに「誰かのために」の輪を広げることができるとともに、福岡JCを多くの方々に知ってもらう機会になると考えます。

本年度、「地域連携室」では、JCIミッション・ビジョンに基づき、多くのひとと出会い、多くのひとを巻き込みます。また東京オリンピック・パラリンピックに関わる事業を通じて、地域の沢山の行事を通じて、グローバルな視点を持った、グローバルな人財を輩出していきます。自分たちだけの成長で終わるのではなく、同じ想いをもった全てのひとが成長し、ともにまちを動かすことができる、我々が目指す明るい豊かな社会に向けた実りある一年にします。

広 報 戦 略 委 員 会

委員会スローガン【一致団結】



委員長 立部光宝
副委員長 丸野正利
拡大・総括幹事 東野茂樹
運営幹事 古賀裕一
会計幹事 手島勇気
広報幹事 武田哲志
岩根修一
岡本健人
久藤拓磨
佐伯岳大
下山英明
中山間介
田 悠一
貴

●基本方針

福岡JCは創立から67年目を迎え、福岡におけるまちづくり・ひとづくりのパイオニアとしてスポーツ・文化・国際交流等様々な分野で、大きな影響を与えてきました。

現在でも、アジア太平洋子ども会議・イン福岡、中洲JAZZをはじめ、福岡に根付いている事業も多々あります。しかし、現在の福岡市にはJC以外にも多くの親睦団体・慈善団体等が存在し、多岐に渡る活動を行っており、JCは福岡市において、唯一のまちづくり・ひとづくりの団体とは言えなくなりました。さらに、数多くの広報媒体が誕生し、誰もが容易に情報の発信・収集を行えるようになり、世の中には情報が溢れかえっています。

そのような中、広報戦略委員会では、まずは外部の方々に福岡JCを知ってもらうべく、HPやSNS、プレスリリース等を活用した情報発信を行います。事業等に興味を持った方々が、必要な情報に、より簡単により分かりやすくアクセスでき、そこからの派生効果として、福岡JCの様々な活動、多くの歴史を知ってもらえるようにしていきます。

67年間、一つの理念のもと世代を超えて活躍してきた福岡JCがどのような団体かを知ってもらい、福岡JCのブランディングにつなげていくことを目指していきます。

また、本年度は世界三大スポーツイベントであるオリンピック・パラリンピックが東京にて開催されます。世界中から注目が集まり、まちも活気づくこの機会を活用し、福岡の更なる発展を目指すために行政と連携を取りながら事業を行い、福岡JCの発信で福岡市に新しいスポーツ文化を根差すことができるように尽力していきます。

最後に、一年間の活動を通じ、委員会メンバーが一致団結し、大きな志を持って自ら率先して、様々な人や団体と協力し行動することで、まちを動かし目的を達成する経験を得て、今後においても、ひと・まちを動かす先駆者となることができるようにしていきます。

●事業計画

◇オリンピック・パラリンピックに関する事業の企画・実施

〈目的〉オリンピック・パラリンピックの支援を通じた福岡JCのブランディング。

〈方法〉オリンピック期間中の、福岡市との共催事業の実施。

◇公開例会の企画・実施（8月）

〈目的〉ひと・まち・ことのブランディングについて、参加者が理解を深めること。

〈方法〉ブランディングの考え方について、聞き手に一石を投じる講師を選定し、講演を行う。

◇LOM運動の広報手法を調査・研究し、効果的な情報発信の実施

〈目的〉福岡市民に対し、福岡青年会議所がどのような団体かを理解してもらい、ブランディングにつなげること。

〈方法〉①LOMホームページの企画・管理・運営 ②LOMの紹介映像制作 ③LOM活動における写真・動画等の記録・管理 ④SNSを利用した各種行事・プレスリリースに関する情報発信 ⑤趣味の会に関する情報発信

◇LOM活動の効果的な対外情報発信（ブランディング）に関する管理・統括

〈目的〉福岡JCのブランディング向上、2020年度に開催する福岡JCの活動を告知すること。

〈方法〉①外部団体からの取材などに関する対応 ②youtube等の動画共有サイトを利用した情報発信の管理・運営（公式チャンネル開設）

◇迷球会・FJCボンズクラブの支援

〈目的〉シニアメンバーと趣味の会を通して交流し、親睦を深めること。

〈方法〉趣味の会キャプテンと連携を取り、活動内容等の情報発信を行う。また委員会として積極的に参加する。

◇各種大会への参加促進【福岡ブロック大会（ひびき）・九州地区大会（出水）・ASPAC（カンボジア/アンコールワット）】

〈目的〉各種大会で行われる大会に積極的にメンバーの参加を促し、出向者の活動を支援すること。

〈方法〉各種大会の目的・内容の把握および情報発信。出向者の活動の把握および情報発信。

◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉会員拡大においては、LOMに新しい価値観をもたらし、LOMの発展に繋がるべく視点でその運動に取り組む。仮入会者への指導・研修においては、「気付きや学び」を動機付けとし、「利他の精神」で率先垂範できる仲間を育成する。

〈方法〉会員拡大を実施するにあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識を持ち、委員会内での情報発信・共有を随時行う。委員会においては委員長のリーダーシップのもと、拡大・総括幹事がその推進役を担う。仮入会者の研修においては、会員自ら仮入会者との接点をつくる努力をし、社会や仲間のために率先して行動する姿を示す中で、JCの原理原則、福岡JCの伝統や精神・魅力を伝えていく。

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2019年					
11月	□討議□協議（2020年度Webサイト事業計画）	釜山JC周年（トリオ会議）25-27日	6月		広島JC定期交歓会 オールメンバーの集い ASPAC（カンボジア） 香港シティJC周年
12月	□討議□協議（2020年度Webサイト事業計画）		7月		国際アカデミー サマコン（横浜）18-19日
2020年					
1月		京都会議16-19日	8月	広報戦略委員会事業実施	8月度公開例会実施 九州地区大会（出水） 迷球会福岡ブロック大会
2月		第3エリア合同例会	9月		全国大会（札幌）24-27日 迷球会九州地区大会
3月			10月	□討議□審議（8月度公開例会事業報告） □討議□審議□協議□審議（事業報告）	FJCボンズクラブ全国大会
4月	□討議□協議（8月度公開例会事業計画） □討議□協議□協議□協議（事業計画）	北九州JC定期交歓会 FJCボンズクラブ九州地区大会	11月		世界会議（横浜）3-7日
5月	□討議□審議（8月度公開例会事業計画） □討議□審議□協議□審議（事業計画）	福岡ブロック大会（ひびき） 下関JC周年（トリオ会議） 迷球会エリア大会	12月	□討議□協議（2020年度Webサイト事業報告）	卒業生を送る夕べ

広 域 開 発 委 員 会

委員会スローガン【後方支援】



委員長 奥膳和時
副委員長 諸岡久司
拡大・総括幹事 金子川宗志
運営幹事 親松岡広慎
会計幹事 倉掛裕光
広報幹事 川口貴之
向野正久
新藤康司
藤宮祥平
宮崎宏一
山下銀次
横田

●基本方針

福岡市は都市環境や豊かな食文化に加え、道路や鉄道などの都市基盤、公共交通ネットワークの充実、都市機能の集積などにより、国内外から評価されている都市へと成長を遂げました。福岡が成長する中で、まちのために活動する団体も増え、福岡JCの影響力の低下を真摯に受け止めていかなければなりません。中心部だけでなく、視野を広げて地域問題を解決していく方法が不足しているからこそ、JCの意義はあります。民間・地域コミュニティ、NPO、行政などと連携を図ることで地域に活力を与え自主的に行動する機会を提供していくことをめざしていきます。

また、福岡で開催される広島JCとの定期交歓会、北九州JCとの交流を通して、メンバーの皆様には、広い視野を持ち、幅広く物事を捉え、今後のJC活動に活かせる情報交換となる場となるようメンバー一丸となり設営して参ります。

最後に、広域開発委員会では他団体・民間・他LOMとの連携を強化することによって福岡JCが成長し、また必要とされ、お互いを尊重しあえる仲間となるよう励んでいきます。そして、委員会メンバーにはこれからの福岡JCの未来を担う存在となるべく、率先して機会を求め、視野を広げ行動し、そして事業を通じ福岡JCとFUKUOKAの発展の一翼を担う人財へと成長できるよう努めます。

●事業計画

◇地域問題の調査研究及び地域との連携強化推進となる事業の企画・実施

〈目的〉福岡市郊外での民間・団体・行政との連携を強化し、同地区の発展に寄与すること。

〈方法〉福岡市郊外の地域問題を調査研究及び有識者へのヒヤリングを行い、地域との連携強化に努め、地域が能動的になるような事業を展開する。

◇広島JCとの交流に関する事項

〈目的〉福岡で行われる広島定期交換会において、友好JCである広島JCとの交流を図ること。

〈方法〉懇親会やゴルフを通じ懇親を深め今後のJC活動に生かせる情報を交換し、さらなる友情を育む場となるように設営する。

◇北九州JCとの交流に関する事項

〈目的〉友好JCである北九州JCとの交流を図ること。

〈方法〉懇親会を通じ、JC活動に生かせる情報を交換し、さらなる友情を育む場となるように設営する。

◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉会員拡大においては、LOMに新しい価値観をもたらし、LOMの発展に繋がるべく視点でその運動に取り組む。仮入会者への指導・研修においては、「気付きや学び」を動機付けとし、「利他の精神」で率先垂範できる仲間を育成する。

〈方法〉会員拡大を実施するにあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識を持ち、委員会内での情報発信・共有を随時行う。委員会においては委員長のリーダーシップのもと、拡大・総括幹事がその推進役を担う。仮入会者の研修においては、会員自ら仮入会者との接点をつくる努力をし、社会や仲間のために率先して行動する姿を示す中で、JCの原理原則、福岡JCの伝統や精神・魅力を伝えていく。

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2019年 11月		釜山JC周年（トリオ会議）25-27日	6月		広島JC定期交歓会 オールメンバーの集い ASPAC（カンボジア） 香港シティJC周年
12月			7月		国際アカデミー サマコン（横浜）18-19日
2020年 1月		京都会議16-19日	8月	広域開発委員会事業実施	九州地区大会（出水）
2月		第3エリア合同例会	9月		全国大会（札幌）24-27日
3月	□討議□協議□協議□協議（事業計画）		10月	□討議□審議□協議□審議（事業報告）	
4月	□討議□協議□協議□協議（事業計画）	北九州JC定期交歓会	11月		世界会議（横浜）3-7日
5月		福岡ブロック大会（ひびき） 下関JC周年（トリオ会議）	12月		卒業生を送る夕べ



室 長 花 田 公 一

日本青年会議所
日本アカデミー委員長

●基本方針

私たち福岡青年会議所には大きな変化の兆しが訪れています。JCという組織自体の改革が叫ばれる中、いち早くその行動に着手してきたのが2019年度でありました。国際アカデミーの機会がまさにその一つであり、2020年度はこの流れを一層加速させ、まちの意識をも変革し得るひとつの団体として、LOMメンバー自身の意識を高めていかなければなりません。

出向とは最も身近な交流であり、成長の機会であります。LOMでは為し得ない規模の事業運営経験や広域な情報の取得、そして何よりも日本全国にとどまらず世界中のJCメンバーとのネットワークをもつメンバーの増大は、LOMの力そのものといえます。出向メンバーを後押しし支援していくことで、LOMメンバーの成長を目指します。

拡大とは、アクティブな市民を生み出す最もダイレクトな手法です。JAYCEEが多ければ多いほど、まちを想い行動する人間が増えていることを意味します。われわれ組織の魅力をいかに対外に伝えていくかが重要であり、女性や20代など従来その魅力を伝えきれなかった層にもアプローチすることで、LOMの組織活性化を目指します。

LOM発展推進室は、ひとと組織が対内そして対外と激しく交流する2020年度を最大のチャンスととらえ、福岡から日本を変える、さらには世界を変えていく、そんな希望をLOMメンバーが抱ける1年として参ります。

メンバーシップ推進委員会

委員会スローガン【福岡から日本、そして世界へ】



委員長 石坂泰三
副委員長 中野篤志
拡大・総括幹事 中村泰治
運営幹事 田村嘉貢
会計幹事 南枝里
広報幹事 池田祐一郎
秋吉由紀
君嶋栄二
坂本満香
左近春樹
竹森優玲
立川奈仁
若杉朗仁

●基本方針

福岡は今やアジアのGATEWAYとして、世界からも注目されるまちにまで発展してきています。県内客、県外客、訪日外国人の観光目的、ビジネス目的客数の合計客数がH26年から一億人を超え、訪日外国人だけでもH29年からは600万人を超えH28年から比べると2倍近くの伸びを示しています。

そして日本は高齢化が進んでおり、人口の約28%が65歳以上という現状があり、今後ますますこの数字は上がっていきます。20年後には日本の総人口が1億2,000万人を下回り、40年後には1億人を切ると予測されています。人口が減少していけば、消費も減り、近い将来日本だけで経済を回していくことがとても難しくなっていくと予想されます。

そこで重要になっていくのが、日本に来る観光客や外国人労働者なのだと思います。そのために福岡JCとして、変わりゆく経済、環境に臨機応変に対応していく力が、今後さらに必要になってくるのです。これからは外の世界を学び知り、福岡のまちをよりよく発展させていくことこそが私たちのこれからの使命ではないでしょうか。

今年度、福岡JCが国際アカデミー開催地LOMとなります。そこで、当委員会はLOMの結束を強固なものにしていくことはもちろん、福岡だけを見るのではなく、国際アカデミー実行委員長並びに出向者を支援するという機会を通し、新たな挑戦を恐れず、今後は日本、世界に目を向け、JCに所属しているからこそ出会える日本、世界のJCメンバー、そして経済人の方々たちとのネットワークを作りコミュニケーションをとっていくことで、多種多様な意見を自分自身に吸収していくことを第一に考えていきます。そして福岡JCの皆様にもその経験を伝えていくことで、FUKUOKAの今後のあるべき姿が見えてくるのだと確信しています。まずは私たちの委員会が率先して動き経験し、さらなる福岡JC一人ひとりの成長のため、そして福岡の人の成長、まちの発展のために多くの外の世界を肌で実感し行動していきます。

最後に、福岡JCの一人のメンバーとして、人の気持ちに立ちメンバーシップを大切にしていくことはもちろん、家族、会社、社会に恥じぬような活動を行い、福岡JCがこれから先も必要とされる団体に成長していくために、そして今後の福岡JCのメンバーシップの在り方を考える第一歩として、委員会メンバーと邁進してまいります。

●事業計画

◇国際アカデミー実行委員長・役員出向者の国内支援

〈目的〉国際アカデミー実行委員長並びに役員出向者が、円滑に活動することが出来る環境を提供し、LOMに発信すること。

〈方法〉すべてのスケジュールを把握・同行しサポートを行い、LOMメンバーに活動内容の発信を行う。また福岡で委員会が行われる際の会場設営を行う。

◇サマーコンファレンス・世界会議（横浜）に関する出向者の支援及びLOMナイトの設営・実施

〈目的〉サマーコンファレンス、世界会議の際の出向者の支援、並びにサマーコンファレンスでのLOMナイトでは出向者の慰労をし、さらなるLOMの結束を図り、そして世界会議のLOMナイトの設営を通して、福岡JCメンバーの結束を図ること。

〈方法〉サマーコンファレンスLOMナイトでは出向者全員にスポットが当たる設営を行う。世界会議では多くのメンバーにLOMナイトに参加していただくために、メンバーが来なくなる設営を行う。

◇JCIトレーニング受講に関する事項

〈目的〉JCIトレーニング受講の機会をLOMメンバーに与え、モチベーションを向上させること。

〈方法〉福岡の地でJCIトレーニングを行う。

◇入会1周年のお祝いに関する事項

〈目的〉1周年を迎えるメンバー（同期会）をLOMメンバー全員でお祝いし、今後の活動の活力にしてもらうこと。

〈方法〉1周年を迎えたメンバーにスポットをあてることはもちろん、LOMの結束を強くするために全メンバーが有意義な時間を過ごせる設営をする。

◇香港シティJCに関する事項を含む国際の機会に関する事項

〈目的〉香港シティJCとの親睦を深め、関係をさらに強めること。

〈方法〉オールメンバーの際のアテンド、そして香港シティJCの周年事業参加を行う。

◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉会員拡大においては、LOMに新しい価値観をもたらす、LOMの発展に繋がるべく視点でその運動に取り組む。仮入会者への指導・研修においては、「気付きや学び」を動機付けとし、「利他の精神」で率先垂範できる仲間を育成する。

〈方法〉会員拡大を実施するにあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識を持ち、委員会内での情報発信・共有を随時行う。委員会においては委員長のリーダーシップのもと、拡大・総括幹事がその推進役を担う。仮入会者の研修においては、会員自ら仮入会者との接点をつくる努力をし、社会や仲間のために率先して行動する姿を示す中で、JCの原理原則、福岡JCの伝統や精神・魅力を伝えていく。

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2019年					
11月		釜山JC周年（トリオ会議）25-27日	6月		入会1周年のお祝い事業 広島JC定期交歓会 オールメンバーの集い ASPAC（カンボジア） 香港シティJC周年
12月			7月		国際アカデミー サマコン（横浜）18-19日
2020年					
1月		京都会議16-19日	8月		九州地区大会（出水）
2月			9月		全国大会（札幌）24-27日
3月		入会1周年のお祝い事業	10月		入会1周年のお祝い事業
4月		JCIトレーニング 北九州JC定期交歓会	11月		世界会議（横浜）3-7日
5月		福岡ブロック大会（ひびき） 下関JC周年（トリオ会議）	12月		卒業生を送る夕べ

拡 大 推 進 委 員 会

委員会スローガン【原点回帰】



委員長 阿部 俊幸
副委員長 吉村 稔
拡大・総務幹事 中村 正史
運営幹事 板谷 和樹
会計幹事 成富 崇智
広報幹事 西口 昌宏
池尻 将悟
石田 光彦
入江 幸治
武本 一利
日野 修治
脇野 洋一
渡辺 精太郎

●基本方針

近年、後継者不足、少子高齢化等の様々な社会情勢の中、福岡JCの会員数は過去6年間停滞傾向にあります。単年度制であるJCの中で、会員拡大は、中長期的なビジョンで推進する必要性を感じています。中長期的な会員拡大を推進できる福岡JCの体質を作るため、まずは現会員の意識改革、『会員拡大は全員で行うものである』を根付かせます。また、ぼうふら会、じゃがいもクラブを中心に趣味を通じて先輩との親睦を深め、さらには拡大情報をいただけるような関係づくりを促進して参ります。

会員拡大の意義とは、新しい躍動感溢れる力が加わる事で、組織としてより一層活性化します。新たなメンバーとの出会いは、私たちに無限の可能性や多様な価値観、様々な機会を与えてくれます。その意義を全メンバーで共有し、日々のJC活動に誇り持って会員拡大を進めていきます。

最後に委員会メンバー全員で与えられた役割を認識し、目標を共有することで一致団結します。所務を全うする中で、自身の器を上げ、JC活動で得た経験を会社や実社会で活かし、一人ひとりが成長を実感できるようにサポート致します。限りある大切な時間にメリハリを付け、一生の友となれるよう信頼と友情で繋がれた委員会を作ります。

●事業計画

◇会員拡大の推進

＜目的＞福岡JCの更なる発展のため、会員拡大を行うこと。※拡大目標100名

＜方法＞LOMメンバー全員に会員拡大の重要性を発信し、拡大対象者に対し福岡JCの魅力を伝えていく。また拡大推進会議を毎月行い、会員拡大の進捗管理を行なう。

◇拡大パンフレット一新に関する事項

＜目的＞福岡青年会議所の活動を分かりやすく伝え、興味を持ってもらうこと。

＜方法＞今の時代背景に合わせ、掲載するコンテンツをより旬な物に変更し、現役メンバーの活動の生の声を掲載する。

◇じゃがいもクラブの設営・運営

＜目的＞シニアメンバーと現役メンバーが趣味を通じて親睦を深めること。

＜方法＞会長、キャプテンと連携し、会の運営が円滑に進むようにサポートする。

◇ぼうふら会の設営・運営

＜目的＞シニアメンバーと現役メンバーが趣味を通じて親睦を深めること。

＜方法＞会長、キャプテンと連携し、会の運営が円滑に進むようにサポートする。

◇香港シティJCに関する事項を含む国際の機会に関する事項

＜目的＞香港シティJCとの親睦を深め、関係をさらに強めること。

＜方法＞オールメンバーの際のアテンド、そして香港シティJCの周年事業参加を行う。

◇研修に関する事項

＜目的＞仮入会者への指導・研修において、「気付きや学び」を動機付けとし、「利他の精神」で率先垂範できる仲間を育成する。

＜方法＞会員自ら仮入会者との接点をつくる努力をし、社会や仲間のために率先して行動する姿を示す中で、JCの原理原則、福岡JCの伝統や精神・魅力を伝えていく。

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2019年 11月	□討議□協議(拡大パンフレット事業計画)	釜山JC周年(トリオ会議) 25-27日	6月		広島JC定期交歓会、オールメンバーの集い ASPAC(カンボジア)、香港シティJC周年 第7回拡大推進会議、第2回じゃがいもクラブ
12月	□討議□協議□協議□協議(拡大パンフレット事業計画)	第1回拡大推進会議	7月		国際アカデミー サマコン(横浜) 18-19日 第8回拡大推進会議
2020年 1月	□討議□審議□協議□審議(拡大パンフレット事業計画)	京都会議16-19日 第2回拡大推進会議	8月		九州地区大会(出水) 第9回拡大推進会議 第3回ぼうふら会
2月		第3エリア合同例会 第3回拡大推進会議 第1回ぼうふら会	9月		全国大会(札幌) 24-27日 第10回拡大推進会議 第3回じゃがいもクラブ
3月		第4回拡大推進会議 第1回じゃがいもクラブ	10月		第11回拡大推進会議
4月		北九州JC定期交歓会 第5回拡大推進会議	11月		世界会議(横浜) 3-7日 第12回拡大推進会議 第4回ぼうふら会
5月		福岡ブロック大会(ひびき) 下関JC周年(トリオ会議) 第6回拡大推進会議 第2回ぼうふら会	12月		卒業生を送る夕べ 第4回じゃがいもクラブ



室 長 松 岡 将 史

●基本方針

福岡JCは戦後祖国の復興を願い発足し、67年間の歴史の中で多くの人財を継続的に輩出してきました。また、世代は違えど同じJAYCEEである諸先輩方との繋がりにより、強固な福岡JCを作り上げてきました。

しかしながら、時代が進めばこのまちを形作る構成要素及び青年個々人の物の考え方も変わり、それに呼応するようにJCの相対的影響力及び存在意義も常に変化しています。またこの変化が1,500名を超える特別会員との繋がり希薄化を招く一因となっているのではないのでしょうか。

特に近年はこの変化が激しく、自らを革新すべき転換期へと差し掛かっています。この状況を悲観するのではなく、JAYCEEそして福岡JCの組織としての存在意義を見つめ直すチャンスであると捉えましょう。

ヒト継承室は、確たる存在意義を持ったJAYCEEを育て上げると同時に既存メンバーにもモチベーションを与えられるような研修事業を実施します。また40歳で卒業という尊さを今一度見つめ直し、その尊さがメンバー自身の成長に繋がり、永遠の友ができるよう運動を展開します。さらに、先人達のネットワークという財産を更なるメンバーの機会にできるような運動を行います。

JAYCEEとしての入口から出口、そして卒業後の繋がりを一気通貫で作り上げることによって、「生涯JAYCEE」として社会一般で通用する人財を作り上げることがより魅力的な福岡JCとなることを信じ、一年間邁進してまいります。

親 睦 委 員 会

委員会スローガン【出会いこそ成長】



委員長 石 崎 裕 一
副委員長 永 露 伸 之
拡大・総括幹事 有 岡 竜 則
運営幹事 諸 永 典 彦
会計幹事 小 柳 祐 貴
広報幹事 馬 場 秀 一
限 健 太 郎
小 杉 達 一
藤 壮 一
三 角 純 康
村 瀬 浩 司
本 村 亮 道
龍 紀 昭

●基本方針

JC活動において人との出会いこそが、自分を大きく成長させるきっかけの一つになります。人と人との出会いと交流がなければ、何も生まれません。様々な人と関わるにより自分自身の価値観を広げ、新しいことに出会い成長へとつながっていきます。諸先輩の方々からつないできた歴史の一つ「オールメンバーの集い」は、他では得難い多くの学びや気づきを得るチャンスなのです。シニアメンバーとの関わりを通じて、見聞を深め、強い人脈を作ることこそが自分の成長の糧となります。一人でも多くのつながりができるように設営を行って参ります。

また、福岡JC最後の事業である「送る夕べ」は「全国大会(札幌)LOMナイト」から一貫性とおとした設営を行い、卒業生の想いを現役メンバーへバトンをつなぐため、新しいステージへと向かうため花道を作って参ります。卒業生それぞれが福岡JCに功績を残してくれたことに感謝し、これまで以上に親睦を深めその想いを受け継ぎ、次世代へと残して行ける場作りを行います。そして近年、卒業生のご家族が参加されない現状がありますので、支えてこられたご家族や会社の仲間たちに事前に参加促進を行っていき、卒業生最後の「カッコイイ背中」を見ていただける設営を行います。

最後に、JCは常に新しい自分と出会える場で、自分を成長させるのは人しか有りません。シニアメンバーをはじめ、様々な人と多くの場に足を運び、出会いと交流の機会に感謝し委員会メンバー全員の成長につなげて参ります。同じ目標に向かい歩んで行く中で、足りない時はお互いをお互いを支え合い、駄目な所は駄目だと遠慮なく言え、どんなことが有ろうとも最後には全員が笑うような委員会を必ず作ります。

●事業計画

◇オールメンバーの集いの企画・実施

〈目的〉福岡JCの67周年を、より多くのシニアメンバーと現役メンバーが集い、お祝いをすると共に交流を深める場を設営すること。
〈方法〉周年事業としてシニアメンバーとの出会いをより多く出来るよう、参加促進につながる情報収集、共有、発信する活動を行う。

◇卒業生を送る夕べの企画・実施

〈目的〉福岡JCを卒業される55年生の皆様を盛大にお祝いし労をねぎらい、現役メンバーへの想いをつなげる場を設営すること。
〈方法〉55年生の方々と密に懇親を深め、全国大会(札幌)LOMナイトから一貫性とおして運営し、思い出に残る送る夕べを企画する。また、支えてこられたご家族や会社の仲間たちに事前に参加促進を行い、卒業生最後の「カッコイイ背中」を見ていただく。

◇全国大会(札幌)LOMナイトの設営・実施

〈目的〉福岡JCを卒業される55年生の皆様をお祝いするとともに、メンバーの懇親を深め送る夕べに繋がる設営を実施する。
〈方法〉現地調査を事前に行い、多くのメンバーに来て頂けるように札幌でしか出来ないようなLOMナイトを設営する。

◇シニアクラブとの交流促進に関する事項

〈目的〉シニア総会を開催し、前年度の会計報告並びに本年度の活動内容をシニアメンバーにお伝えする。また還暦を迎える昭和35年生の先輩方を祝福すること。
〈方法〉シニア会長・シニア専務・シニア事務局長と調整を図り、昭和54年生と連携をとって企画・設営を行う。

◇ノーサイドクラブの支援

〈目的〉シニアメンバーと現役メンバーが、ラグビーを通じて交流することにより親睦を深めて頂くサポートを行う。
〈方法〉会長・監督・キャプテンと調整を図り、大会・練習の運営補助を行う。

◇トリオ会議を含む国際の機会に関する事項

〈目的〉これまで育んできた下関・釜山青年会議所との友情を途切れることなく継承していく。
〈方法〉各々が地域社会のために率先して行動する機会を共有することで、互いの成長を促し高め合う相乗効果を生み出す。

◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉会員拡大においては、LOMに新しい価値観をもたらし、LOMの発展に繋がるべく視点でその運動に取り組む。仮入会者への指導・研修においては、「気づきや学び」を動機付けとし、「利他の精神」で率先垂範できる仲間を育成する。
〈方法〉会員拡大を実施するにあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識を持ち、委員会内での情報発信・共有を随時行う。委員会においては委員長のリーダーシップのもと、拡大・総括幹事がその推進役を担う。仮入会者の研修においては、会員自ら仮入会者との接点をつくる努力をし、社会や仲間のために率先して行動する姿を示す中で、JCの原理原則、福岡JCの伝統や精神・魅力を伝えていく。

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2019年 11月		釜山JC周年(トリオ会議) 25-27日	6月		広島JC定期交歓会 オールメンバーの集い ASPAC(カンボジア) 香港シティJC周年
12月	□討議□協議□協議□協議(オールメンバー計画)		7月	□討議□審議□協議□審議(オールメンバー報告)	国際アカデミー サマコン(横浜) 18-19日
2020年 1月	□討議□審議□協議□審議(オールメンバー計画)	京都会議16-19日	8月	□討議□協議□協議□協議(送る夕べ計画)	九州地区大会(出水)
2月		第3エリア合同例会 シニア総会	9月	□討議□審議□協議□審議(送る夕べ計画)	全国大会(札幌) 24-27日
3月			10月		
4月		北九州JC定期交歓会	11月		世界会議(横浜) 3-7日
5月		福岡ブロック大会(ひびき) 下関JC周年(トリオ会議) ノーサイドクラブ全国大会	12月		卒業生を送る夕べ

研 修 委 員 会

委員会スローガン【新進気鋭】

●基本方針

JCは、明るい豊かな社会を実現するために、三信条（個人の修練、社会への奉仕、世界との友情）のもとJC運動を展開しています。そのJC活動の中でわたしたちJayceeは、4つの機会（個人の機会、地域の機会、国際の機会、ビジネスの機会）を得ることができ一方で、いかに自己・仕事・家庭に「相乗効果」をもたらすことができるかを追求していかなければなりません。

福岡JCは、まちづくり、ヒトづくりを掲げ、67年の歴史の中で福岡にさまざまな新しい価値を生み出してきました。そのまちづくりの源泉であるヒトづくりにおいて、要ともいえる「研修委員会」は、福岡JCの最も重要なアイデンティティとして代々受け継がれてきました。これからも福岡JCが、現代社会にとって、地域社会にとって魅力的な団体であり続けるためには、継承と革新を重ねる「センス」と、実績と言動に裏付けされた「説得力」を身に付けたリーダーを早期育成することが最大のミッションだと考えます。

本年度研修委員会は、仮入会者への指導・研修・オリエンテーションをとおして、まず「気付きや学び」を動機付けとし「利他の精神」で率先垂範できる仲間を輩出します。そして、新入会者同期会事業「にゅーめん」では、新しくテーマ設定を行い、「ところてん」から引き継いだ事業目的の「同期の絆」「LOMメンバーとの交流」「JCの仕組みの理解」を達成するとともに、「感謝の心」を育む事業へと導きます。さらに、固定観念にとらわれない研修スキームの再構築、数値目標や意識調査、国際年度らしいモジュールやJCI Vision/Mission/Creedの採用など、新しいことにも果敢に挑戦する一年にしていきたいと思います。

委員会運営・所務においては、「些細なことを大げさに、大きなことをスマートに」をモットーに、一つひとつの集いや機会を有意義で楽しいものに変化させていきます。何事にも想像力を働かせ、少しの工夫、少しの手間、少しの思いやりを委員会メンバー全員で実践していきます。「所務は99%準備」です。どのような機会においても、委員会メンバーが「大変な日」ではなく、「輝く日」だということを念頭に、日頃から委員会メンバーを巻き込み、指導して参ります。私たちの運動や活動が誰を幸せにしているのか、一人ひとりが自分なりの答えを見出せるJCマンを育成します。

●事業計画

◇仮入会者への指導・研修に関する事項

＜目的＞「利他の精神」で率先垂範できるJAYCEEを育成し、福岡JCの発展に貢献し、FUKUOKAでリーダーシップを発揮できる人財を輩出する。

＜方法＞オリエンテーションでは、「気付きや学び」を動機付けとし、奉仕・修練・友情を経験させる。また、各会合のオープニングやメンバーとの交流をとおして、福岡JCの伝統や精神・魅力を伝える。

◇仮入会者へのオリエンテーションの企画・実施

＜目的＞JCI・JCの原理原則、福岡JCの伝統や精神・魅力を学び、正式入会後にポテンシャルを発揮できる基礎、謙虚に学ぼうとする姿勢を身に付ける。

＜方法＞新たな経験・出会いをとおして「気づきや学び」に触れることで自らを素直に見つめ直し、ポジティブチェンジを生み出すオリエンテーションを実施する。

◇新入会者同期会事業に関する事項

＜目的＞新入会者が「同期の絆」「LOMメンバーとの交流」「JCの仕組みの理解」を達成する。

＜方法＞新入会同期会事業「にゅーめん」の議案作成・事業構築の指導をとおして、3つの目的と三信条（修練・奉仕・友情）を達成するとともに「感謝の心」を育む事業へと導く。

◇やすらぎ荘JCキャンプの企画・実施

＜目的＞社会福祉・ボランティア活動をとおして、ヒトとしての謙虚さ、利他の精神を学ぶ場とする。

＜方法＞新入会者3同期会を中心に、九州大学およびやすらぎ荘と連携を図り事業を実施する。

◇トリオ会議を含む国際の機会に関する事項

＜目的＞これまで育んできた下関・釜山JCとの友情を途切れることなく継承していく。

＜方法＞各々が地域社会のために率先して行動する機会を共有することで、互いの成長を促し高め合う相乗効果を生み出す。

◇会員拡大・研修に関する事項

＜目的＞LOMに新しい価値観をもたらし、LOMの発展に繋がるべく視点でその運動に取り組む。

＜方法＞メンバー全員が会員拡大の当事者意識を持ち、委員会内での情報発信・共有を随時行う。委員会においては委員長のリダーシップのもと、拡大・総括幹事がその推進役を担う。



委員長	水崎浩二
副委員長	新谷健一
拡大・総括幹事	吉田豊
運営幹事	藤崎康司
会計幹事	古川主税
広報幹事	島雄一
	有光麻美
	占部泰洋
	河野康二
	立部真康
	田中隆志
	千種祐香
	横山弘之

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2019年 11月	□討議□協議（前期オリエンテーション事業計画）	入会審査（前期） 釜山JC周年（トリオ会議）25-27日	6月		中期オリエンテーション② 広島JC定期交歓会 オールメンバーの集い ASPAC（カンボジア）、香港シティJC周年
12月	□討議□審議（前期オリエンテーション事業計画）		7月	□討議□協議（後期オリエンテーション事業計画） □討議□審議□討議□討議 （やすらぎ荘JCキャンプ事業計画）	中期オリエンテーション③ にゅーめん事業：前期 国際アカデミー サマコン（横浜）18-19日
2020年 1月	□討議□討議□討議□討議 （にゅーめん事業計画：前年度後期）	前期オリエンテーション① 京都会議16-19日	8月	□討議□審議（後期オリエンテーション事業計画） □討議□審議（中期オリエンテーション事業報告） □討議□討議□討議□討議（にゅーめん事業報告：前期）	入会審査（後期） 九州地区大会（出水）
2月		前期オリエンテーション② 第3エリア合同例会（つくし） シニア総会	9月	□討議□討議□討議□討議 （にゅーめん事業計画：中期）	後期オリエンテーション① 全国大会（札幌）24-27日
3月	□討議□協議（中期オリエンテーション事業計画）	前期オリエンテーション③ にゅーめん事業：前年度後期	10月		後期オリエンテーション② やすらぎ荘JCキャンプ
4月	□討議□審議（中期オリエンテーション事業計画） □討議□審議（前期オリエンテーション事業報告） □討議□討議□討議□討議（にゅーめん事業報告：前年度後期）	入会審査（中期） 北九州JC定期交歓会	11月		後期オリエンテーション③ にゅーめん事業：中期 世界会議（横浜）3-7日
5月	□討議□討議□討議□討議 （にゅーめん事業計画：前期）	中期オリエンテーション① 福岡ブロック大会（ひびき） 下関JC周年（トリオ会議）	12月	□討議□審議（後期オリエンテーション事業報告） □討議□審議□討議□討議（やすらぎ荘JCキャンプ事業報告） □討議□討議□討議□討議（にゅーめん事業報告：中期）	入会審査（次年度前期） 卒業生を送る夕べ



室 長 前 川 裕 貴

●基本方針

まちは発展都市として先進的な展開が進んでいる中、70年の節目に向かって新たな転換期を迎えた福岡JCにおいて、これまで受け継いできた伝統を大切にするとともに、今の福岡JCだからこそできる活動を創造し、挑戦し続けることが重要であると考えます。そこで総務室ではLOMの屋台骨としての自覚を持ち、LOMメンバーが活動しやすい環境を創出します。

まずは、福岡JCとしての想いや進むべき道の共有が必要です。ただ単に集まるだけではなく、多くのメンバーが何かしらの目的をもったうえで集える場を提供していき、意味ある場所に価値を感じていただきます。そして、各委員会から上程された議案については、コンプライアンス面はもちろんのこと、より取り組みやすくするため自分事として向き合いLOMの発展を促進します。

これから、福岡JCもFUKUOKAも進化していくべく、青年だからこそできる自由な発想を制御することなく大胆かつ明確にJC運動ができるよう取り組んでまいります。

例 会 委 員 会

委員会スローガン【遊戯三昧】



委員長 井上 量 太
副委員長 柳 洋 章
拡大・総務幹事 村 津 万 里
運営幹事 黒川 友 成
会計幹事 手島 貴 裕
広報幹事 寺田 光 児
五 十 嵐 亮
辻 平 一 郎
那 須 亮 太
西 川 貞 治
平 山 健 一
藤 野 哲 司
山 口 望

●基本方針

例会は、福岡JCのメンバーが月に一度、理事長の元に集い、メンバーが気付きや学びを得るだけでなく、理事長の想いを聞き、考えを理解して、福岡JCの想いの方向性を一般の方々へ発信できる貴重な機会となっています。

その貴重な例会には全メンバーが参加する義務があるものの、近年の参加人数をみるかぎり「参加動員を向上させ、メンバー同士が交流を図れる貴重な機会であると再確認するべき」と感じます。

どの委員会がどんな事業をやるのか詳しく知り、対内、対外を問わず一委員会だけの事業ではなくLOMの事業へと認識していくようにメンバーの意識を変えていく、そのために月に一度の例会で委員会メンバーだけではなく、多くのLOMのメンバーとの交流を図り、各委員会の活動を知る機会として、委員会は活動アピールをする場として、出向者の方から福岡JC以外の情報を知ることば例会でしかできない交流です。

この機会を十分に活かし「FUKUOKAのために率先して行動する若者」として、周囲の理解を得、未来を見据えて汗をかきながら行動していく必要があります。

当委員会はまずは私たちがLOMの屋台骨としてメンバーを纏める委員会であるという自覚と誇りをもって「ワクワク」し、行きたいと思える例会の企画・運営に努めます。例会が楽しい場となることがメンバーのモチベーションアップへと繋がりLOMメンバーが活動しやすい環境が出来ていくこととなります。

例会委員会メンバー自身がこんなことがしたい、こんな人に会いたいと感じることからスタートして「ワクワク」を大きくしていき、その「ワクワク」をLOMにメンバーへ伝えていきます。そして他人ごとではなく、役に捕われず自分のできることをメンバーのために進んでやるJCの中だけで完結しない、一生涯の仲間を今年も例会委員会で育んでいきます。それがJCでしかできない経験になると確信しています。

●事業計画

◇新春例会の実施(1月)

〈目的〉同じ志を持ち進んでいくために2020年の福岡JCの方向性を共有し、スタートを華々しくすること。

〈方法〉来賓の方々をはじめ、全メンバーが参加となるべく参加促進を行い、厳粛かつ華やかな雰囲気の中、新春の門出をメンバー一同で祝う会の設営・運営を行う。

◇福岡ブロック第3エリア合同例会の実施(2月)

〈目的〉福岡ブロック協議会の方針を理解するとともに、お互いのJC活動を理解し、第3エリア内の結びつきを強めること。

〈方法〉主幹LOMである糸島JCを中心に、朝倉JC・つくしJCとの連携を常に図り、福岡ブロックの方針を理解し第3エリア内のメンバーと交流を図り、4LOMの交流を図れる会の設営・運営を行う。

◇通常例会の実施

〈目的〉LOMとしての一体感を感じるとともに、メンバー同士の認識を深めること。

〈方法〉例会本来の役割に立ち返り、委員会の垣根を越えてLOMがひとつとなるとともに、メンバー同士のつながりがより強くなるような、学びがあり、「ワクワク」する会の設営・運営を行う。

◇短縮例会の実施

〈目的〉LOMの動き方向性を再確認すること。

〈方法〉各委員会と連携を取り、効率的な運営を行うとともに、しっかりと報告・連絡ができる会の設営を行う。

◇ファミリーレクリエーション例会の実施

〈目的〉JC活動を支えている家族にJCの活動に対する理解を深め、メンバーが今後のJC活動に取り組める環境を作ること。

〈方法〉多くのメンバーが家族と一緒に参加し感謝を伝えと同時に、家族ぐるみで交流ができ、毎年のファミリーレクリエーションを楽しみにしてもらえる様な会の設営・運営を行う。

◇国際アカデミー レセプションパーティー

〈目的〉海外デリゲイツの参加者の同士が相互理解を深め、国際アカデミーの良いスタートができる環境を作ること。

〈方法〉開催地LOMとして海外デリゲイツを歓迎し日本の文化に触れてもらい参加者同士のコミュニケーションが図られるレセプションの設営・運営を行う。

◇サウスサイゴンJCに関する事項含む国際の機会に関する事項

〈目的〉メンバーが国際アカデミーのみでなく、様々な国際の機会に携われるように、特にサウスサイゴンJCとの友好関係の構築に努める。

〈方法〉サウスサイゴンJCの周年や招待行事には率先して参加する。また、オールメンバー時にはサウスサイゴンJCメンバーをおもてなしの心でお出迎えを行う。

◇会員拡大・研修に関する事項

〈目的〉会員拡大においては、LOMに新しい価値観をもたらし、LOMの発展に繋がるべく視点でその運動に取り組む。仮入会者への指導・研修においては、「気付きや学び」を動機付けとし、「利他の精神」で率先垂範できる仲間を育成する。

〈方法〉会員拡大を実施するにあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識を持ち、委員会内での情報発信・共有を随時行う。委員会においては委員長のリダーシップのもと、拡大・総務幹事がその推進役を担う。仮入会者の研修においては、会員自ら仮入会者との接点をつくる努力をし、社会や仲間のために率先して行動する姿を示す中で、JCの原理原則、福岡JCの伝統や精神・魅力を伝えていく。

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2019年					
11月	□討議□協議(新春例会事業計画)	釜山JC周年(トリオ会議) 25-27日	6月	□討議□協議(9月度短縮例会事業計画) □討議□審議□協議(5月度ファミレク例会事業報告)	事業実施(短縮例会)、広島JC定期交歓会 オールメンバーの集い ASPAC(カンボジア) 香港シティJC周年
12月	□討議□審議(新春例会事業計画) □討議□協議(第3エリア合同例会事業計画) □討議□討議(3月度通常例会事業計画)		7月	□討議□審議(9月度短縮例会事業計画) 国際アカデミー レセプションパーティー実施	事業実施(通常例会) 国際アカデミー サマコン(横浜) 18-19日
2020年					
1月	□討議□審議(第3エリア合同例会) □討議□協議(3月度通常例会事業計画) □討議□協議□協議□協議(レセプションパーティー計画)	事業実施(新春例会) 京都会議16-19日	8月	□討議□協議(11月度通常例会事業計画) □討議□協議(7月度通常例会事業報告)	九州地区大会(出水)
2月	□討議□審議(新春例会事業報告) □討議□審議(3月度通常例会事業計画) □討議□協議□協議□協議(5月度ファミレク例会事業計画) □討議□審議□協議□審議(レセプションパーティー計画)	事業実施(短縮例会) 第3エリア合同例会	9月	□討議□審議(11月度通常例会事業計画) □討議□協議(12月度短縮例会事業計画)	事業実施(短縮例会) 全国大会(札幌) 24-27日
3月	□討議□審議□協議□審議(5月度ファミレク例会事業計画)	事業実施(通常例会)	10月	□討議□審議(12月度短縮例会事業計画) □討議□審議(9月度短縮例会事業報告)	
4月	□討議□審議(3月度通常例会事業報告) □討議□協議(7月度通常例会事業計画) □討議□審議(第3エリア合同例会事業報告)	北九州JC定期交歓会	11月		事業実施(通常例会) 世界会議(横浜) 3-7日
5月	□討議□審議(7月度通常例会事業計画)	事業実施(ファミリーレクリエーション) 福岡ブロック大会(ひびき) 下関JC周年(トリオ会議)	12月		事業実施(短縮例会) 卒業生を送る夕べ

総務財政委員会

委員会スローガン【当事者意識！すべてのことを自分ごと化！】



委員長 伴 卓也
副委員長 山崎 大士
拡大・総括幹事 島居 百年
運営幹事 岩下 優典
会計幹事 木村 泰斗
広報幹事 大幡 文
上田 健史
上田 久紀
江原 健一郎
北崎 陽介
田崎 麗一
中村 優太
山村 義博

●基本方針

福岡JCの事業は、福岡のまちの発展、そこに住み暮らす市民のために実施され、我々青年だからこそ持てるアイデアと行動力をフル活用し、FUKUOKAを活気づける事業として一定の評価をいただいているといえます。どの委員会も真剣に議案に向き合い、知恵を出し合い、時間を費やして事業を構築します。そして、本年は国際アカデミー開催地LOMとして、ホスピタリティの精神を存分に発揮した議案が多数上程されます。海外や他のLOMのメンバーに、福岡JCの事業の品質の高さを示せるように、コンプライアンスチェックを徹底します。また、事業費は、メンバーの会費が原資です。そうである以上、適正な会計処理は当然ながら、その効果を最大化する議論が必須になります。コンプライアンス面、会計面のみならずJCI MISSION、JCI VISIONに対応する事業に成長させるため、事業の最良化を目指し、各委員会の議案構築のパートナーとして、連携して事業構築に向き合います。

昨年から運用が開始されたアジェンダ、議案のクラウド化を引き継ぎ、上程スケジュールを徹底管理し、より効率的、生産性の高い会議体を目指します。また、内容の濃い、議案構築セミナーを開催し、質の高い議案作成の援助をおこなっていきます。

すべての物事を自分ごとと捉えて前向きに臨み、チャンスを生かしていけるようにメンバーを巻き込みながら、委員会運営を行っていきます。また、会員褒賞を効果的に運用し、LOM全体のモチベーションを高めます。自らが置かれている状況を最大限楽しみ、成長し、周りの人間を引っ張り上げ、まちをも動かしていく、そんなJAYCEEを育成していきます。

●事業計画

- ◇総会、理事会、常任理事会の設営・運営
 - 〈目的〉各会の効率化、生産性を高め、福岡青年会議所の意思を明確にすること。
 - 〈方法〉委員会内での役割分担を明確化し、徹底した出欠確認、時間厳守を行う。また、議事内容の正確化を目指し、決定意思を明らかにする。
- ◇各委員会の議案上程スケジュールの管理
 - 〈目的〉各議案が適正に協議・審議されるように、議案上程期限を厳守する意識を向上させる。
 - 〈方法〉上程スケジュールを管理、クラウドシステムを活用し、議案の状況を常に把握及び締切のアナウンスを徹底すること。
- ◇各委員会議事録、事業報告書の管理・保持
 - 〈目的〉各委員会の活動内容を把握できるようにするため、各委員会の議事録を管理すること。また、今後の事業構築に資するため、事業報告書を管理すること。
 - 〈方法〉各委員会に議事録・事業報告書の期限内の提出を徹底していただき、広報委員会と連携をとり、福岡青年会議所ホームページの会員ページで閲覧できるようにする。
- ◇委員会事業に関する予算、決算、コンプライアンスの事前審査
 - 〈目的〉メンバーからの会費を有効的に、また効果を最大化できるように事業予算が適正に計画され、実行されているかを厳正に審査すること。各事業が、コンプライアンス上適正なものであるかを審査し、社会一般のルールを厳守していくこと。
 - 〈方法〉各事業において、背景・目的・手法に一本筋が通っているか、また、JCI MISSION、JCI VISIONに根差した事業になっているかを確認し、予算が適正に使用されているかを精査する。その他事業内容が法令・規則に則っているか、社会通念上の規範を逸脱していないかを審査する。
- ◇会員規律、入会に関する事項
 - 〈目的〉会員規律の意義を周知し、組織が永続的に続くように努めること。
 - 〈方法〉正会員に会員規律の徹底を促し、新入会員には入会審査時にわかりやすく説明する。
- ◇会員褒賞の企画・実施
 - 〈目的〉会員のモチベーションが高くなるように、各種褒賞を設定すること。
 - 〈方法〉褒賞内容はわかりやすく、且つ取り組みやすいものとなるようにし、推薦方法及び選考基準に不明瞭な部分がないように褒賞内容を企画し、実施する。
- ◇議案構築・財政規則に関するセミナーの企画・実施
 - 〈目的〉議案構築の考え方、システムの使用法のレクチャーや、財政規則に関する知識習得のため、事業構築の援助を図る。
 - 〈方法〉事業構築に伴うセミナー資料を再構築し、システムの変更点や利用上のポイントを説明する。また、JCI MISSION、JCI VISIONに対応した事業となるよう、考え方のヒントを説明する。
- ◇褒賞申請の作成（JCI・日本・地区・ブロック）
 - 〈目的〉当該年度の事業について褒賞申請を行うことで、福岡JCの魅力を全国に発信する。
 - 〈方法〉褒賞の内容を確認し、申請の段取りを把握したうえで、申請を行う。
- ◇サウスサイゴンJCに関する事項含む国際の機会に関する事項
 - 〈目的〉メンバーが国際アカデミーのみでなく、様々な国際の機械に携われるように、特にサウスサイゴンJCとの友好関係の構築に努める。
 - 〈方法〉サウスサイゴンJCの周年や招待行事には率先して参加する。また、オールメンバー時にはサウスサイゴンJCメンバーをおもてなしの心でお出迎えをおこなう。
- ◇会員拡大・研修に関する事項
 - 〈目的〉会員拡大においては、LOMに新しい価値観をもたらす、LOMの発展に繋がるべく視点でその運動に取り組む。仮入会者への指導・研修においては、「気付きや学び」を動機付けとし、「利他の精神」で率先垂範できる仲間を育成する。
 - 〈方法〉会員拡大を実施するにあたり、メンバー全員が会員拡大の当事者意識を持ち、委員会内での情報発信・共有を随時行う。委員会においては委員長のリダーシップのもと、拡大・総括幹事がその推進役を担う。仮入会者の研修においては、会員自ら仮入会者との接点をつくる努力をし、社会や仲間のために率先して行動する姿を示す中で、JCの原理原則、福岡JCの伝統や精神・魅力を伝えていく。

委員会年間スケジュール

	上程スケジュール	行 事		上程スケジュール	行 事
2019年 11月	□討議□協議（褒賞議案）	釜山JC周年（トリオ会議）25-27日	6月	5月度褒賞（例会）、広島JC定期交歓会 オールメンバーの集い ASPAC（カンボジア） 香港シティJC周年	
12月	□討議□審議□協議□審議（褒賞議案計画）	入会審査（前期）	7月	6月度褒賞 国際アカデミー サマコン（横浜）18-19日	
2020年 1月		京都会議16-19日	8月	7月度褒賞（例会） 入会審査（後期） 九州地区大会（出水）	
2月		1月度褒賞（例会） 第3エリア合同例会 総会	9月	全国大会（札幌）24-27日	
3月		2月度褒賞（例会）	10月	8月度・9月度褒賞（例会）	
4月		3月度褒賞（例会） 入会審査（中期） 北九州JC定期交歓会	11月	10月度褒賞（例会） 世界会議（横浜）3-7日	
5月		4月度褒賞（例会） 福岡ブロック大会（ひびき） 下関JC周年（トリオ会議）	12月	11月度褒賞（例会） 総会 卒業生を送るタベ 入会審査（前期）	

一般社団法人 福岡青年会議所
2020年度 室・委員会 所務分掌規程

■国際アカデミー特別委員会 ☐ 国際アカデミーの運営に関する事項 ☐ 国際アカデミーに関する開催地プログラムの企画・実施 ☐ 国際アカデミーに関する特別モジュールの企画・実施 ☐ 国際アカデミーに関する食文化体験プログラムの企画・実施（福岡ブロック共催事業） ☐ 国際アカデミーのキャラバンに関する事項 ☐ 公開例会の企画・実施（10月） ☐ 会員拡大・研修に関する事項	
■日本のタカラ室 ☐ 国際アカデミーのキャラバンに関する事項（エリアC）	■日本人ブランド発信委員会 ☐ 日本人の魅力に関する調査・研究及びその発信に関する国際アカデミー開催地プログラムの企画・実施 ☐ 世界から見た日本人の魅力に関する調査・研究及びその発信に関する事業の企画・実施 ☐ 趣味の会の関する事項 ◇茶道同好会の支援 ☐ 会員拡大・研修に関する事項
	■キッズアカデミー委員会 ☐ 国際アカデミーに関する学校訪問プログラムの企画・実施 ☐ キッズJAYCEE第二期生の募集と育成に関する事業の企画・実施 ☐ 会員拡大・研修に関する事項
■未来のカタチ室 ☐ 国際アカデミーのキャラバンに関する事項（エリアA）	■FUKUOKAビジネス発信委員会 ☐ 国際アカデミーに関するエクスカーションの企画・実施 ☐ インバウンドを通じたFUKUOKAの可能性の立案に関する事業の企画・実施 ☐ 公開例会の企画・実施（4月） ☐ 会員拡大・研修に関する事項
	■JCIミッション・ビジョン推進委員会 ☐ 国際アカデミーに関するウェルカムパーティー（国内外）の企画・実施 ☐ ヤングJAYCEE第二期生の募集と育成に関する事業の企画・実施 ☐ 会員拡大・研修に関する事項
■コドモの未来創造室 ☐ 国際アカデミーのキャラバンに関する事項（エリアD）	■子育て環境創造委員会 ☐ 国際アカデミーに関するホームステイの運営 ☐ 国際アカデミーに関するフェアウェルパーティーの企画・実施 ☐ 日本と世界の子育て環境に関する調査・研究及びその発信に関する事業の企画・実施 ☐ 会員拡大・研修に関する事項
	■こども環境創造委員会 ☐ 国際アカデミーに関するウェルカムパーティー（国外）の企画・実施 ☐ こどもたちに自分の未来を考えるきっかけを与える事業の企画・実施 ☐ 会員拡大・研修に関する事項
■地域連携室 ☐ 国際アカデミーのキャラバンに関する事項（エリアB）	■広報戦略委員会 ☐ オリンピック・パラリンピックに関する事業の企画・実施 ☐ 公開例会の企画・実施（8月） ☐ LOM運動の広報手法を調査・研究し、効果的な情報発信の実施 ◇LOMホームページの企画・管理・運営 ◇LOM紹介映像の制作 ◇LOM活動における写真・動画等の記録・管理 ◇SNSを利用した各種行事・プレスリリースに関する情報発信 ◇趣味の会に関する事項の発信 ☐ LOM活動の効果的な対外情報発信（ブランディング）に関する管理・統括 ◇外部団体からの取材などに関する対応 ◇youtube等の動画共有サイトを利用した情報発信の管理・運営（公式チャンネル開設） ☐ 趣味の会に関する事項 ◇迷球会・FJCポンズクラブの支援 ☐ 福岡ブロック大会（ひびき）・九州地区大会（出水） ASPAC（カンボジア／アンコールワット）への参加促進 ☐ 会員拡大・研修に関する事項
	■広域開発委員会 ☐ 地域問題の調査研究及び地域との連携強化推進となる事業の企画・実施 ☐ 広島JCとの交流に関する事項 ☐ 北九州JCとの交流に関する事項 ☐ 会員拡大・研修に関する事項

■LOM発展推進室 ☐香港シティJCに関する事項 ☐国際アカデミーのキャラバンに関する補助・支援	■メンバーシップ推進委員会 ☐国際アカデミー実行委員長・役員出向者の国内支援に関する事項 ☐サマーコンファレンス・世界会議（横浜）に関する出向者の支援及びLOMナイトの設営・実施 ☐JCITレーニング受講に関する事項 ☐入会1周年のお祝いに関する事項（3月・6月・10月） ☐香港シティJCに関する事項を含む国際の機会に関する事項 ☐会員拡大・研修に関する事項 ■拡大推進委員会 ☐会員拡大の推進 ☐拡大パンフレット作成に関する事項 ☐趣味の会に関する事項 ◇じゃがいもクラブの設営・運営 ◇ぼうふら会の設営・運営 ☐香港シティJCに関する事項を含む国際の機会に関する事項 ☐研修に関する事項
■ヒト継承室 ☐トリオ会議に関する事項 ☐国際アカデミーのキャラバンに関する補助・支援	■親睦委員会 ☐オールメンバーの集いの企画・実施 ☐卒業生を送る夕べの企画・実施 ☐全国大会（札幌）LOMナイトの設営・実施 ☐シニアクラブとの交流促進に関する事項 ☐趣味の会の関する事項 ◇ノーサイドクラブの支援 ☐トリオ会議を含む国際の機会に関する事項 ☐会員拡大・研修に関する事項 ■研修委員会 ☐仮入会者への指導・研修に関する事項 ☐仮入会者へのオリエンテーションの企画・実施 ☐やすらぎ荘JCキャンプの企画・実施 ☐新入会者同期会事業に関する事項 ☐トリオ会議を含む国際の機会に関する事項 ☐会員拡大に関する事項
■総務室 ☐サウスサイゴンJCに関する事項 ☐国際アカデミーのキャラバンに関する補助・支援	■例会委員会 ☐国際アカデミーに関する理事長招待レセプションパーティーの企画・実施 ☐新春例会の企画・実施（1月） ☐福岡ブロック第3エリア合同例会の企画・実施（2月） ☐例会の企画・実施（3月・7月・11月） ☐短縮例会の企画・実施（6月・9月・12月） ☐ファミリーレクリエーション例会の企画・実施（5月） ☐サウスサイゴンJCに関する事項含む国際の機会に関する事項 ☐会員拡大・研修に関する事項 ■総務財政委員会 ☐総会、理事会、常任理事会の設営・運営 ☐各委員会の議案上程スケジュールの管理 ☐各委員会議事録、事業報告書の管理・保持 ☐委員会事業に関する予算、決算、コンプライアンスの事前審査 ☐会員規律、入会に関する事項 ☐会員褒賞の企画・実施 ☐議案構築・財政規則に関するセミナーの企画・実施 ☐褒賞申請の作成（JCI・日本・地区・ブロック） ☐サウスサイゴンJCに関する事項含む国際の機会に関する事項 ☐会員拡大・研修に関する事項

事務局長・常務理事・セクレタリー 所務分掌

事務局長	☐外部団体出向、後援依頼の調査、確認に関する事項 ☐会員名簿、名刺、ネームプレートの作成に関する事項 ☐事務局の運営 ☐常務理事・セクレタリーの統括 ☐国際アカデミーに関するブロックへの支援依頼・管理（食文化体験プログラム、エクスカーション、ホームステイ） ☐国際アカデミーに関する理事長招待レセプションパーティーの設営 ☐災害発生時の支援取りまとめに関する事項 ☐その他
常務理事	☐理事長の同行及び所務の補佐 ☐専務理事、事務局長のサポート ☐理事長のスケジュール管理、調整に関する事項 ☐京都会議への参加促進、LOMナイトの設営・実施 ☐国際アカデミーに関する理事長招待レセプションパーティーの設営 ☐その他
セクレタリー	☐理事長の同行及び所務の補佐 ☐京都会議への参加促進、LOMナイトの設営・実施 ☐国際アカデミー理事長招待レセプションパーティーの設営 ☐その他

一般社団法人 福岡青年会議所 2020年度委員会編成表

理 事 長															出 田 正 城																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
直前理事長	国際アカデミー実行委員長 安永 拓一郎					強彦義明					山口剛弘					井川陽介					古市剛					橋本久志					電務理事 森毛 亮					直前理事長 岩木 勇人																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
重 特別委員会	日本のタカラ室					未来のカタチ室					コドモ未来創造室					地域連携室					LOM発展推進室					ヒト継承室					総務室																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
重長 特別委員長	西崎 聖					戸嶋 太一					吉田 悠二					加地 大希					花田 公一					松岡 得史					前川 裕貴					監 事																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
委員会	日本人ブランド発信 委員会					FUKUOKAビジネス 発信委員会					子育て促進創造 委員会					広域開発委員会					広域開発委員会					メン・バー・シ・ブ推進 委員会					拡大推進委員会					研修委員会					例外委員会					総務財政委員会					新福 貴法																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
委員長						鶴山 健吾	中原 壮一郎	伊藤 慎吾	佐伯 公大	斎藤 健吾	近永 征也	山野 晋	加地 亮太	河野 将剛	小林 大介	安部 亮二	高見 慎也	武田 智志	倉掛 祐輔	池田 祐一郎	西口 昌宏	馬場 秀一	島 雄一																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							

青年会議所の概況

■ JCI 加盟国 113 NOMs

■ JCI 加盟 JC 数 約 4,679 LOMs 会員数 約 155,094 名 < 2018年11月現在 >

■ 日本 JC 加盟 JC 数 695 LOMs 会員数 33,456 名 < 2019年11月1日現在 >

■ 福岡 JC 会員数 227 名 < 2020年1月1日推定 >

■ 福岡 JC 創立関連

《 創 立 年 月 日 》 1953 年 2 月 4 日 《 スポンサー JC 》 宮崎 JC

《 法人許可年月日 》 1971 年 4 月 24 日

《 一般社団法人

移行年月日 》 2013 年 10 月 1 日

■ スポンサー JC 飯塚 JC 、久留米 JC 、直方 JC 、つくし JC 、糸島 JC

■ シスター JC 釜山 JC (韓国) 1965 年 4 月 20 日

※下関 JC と共にトリオ JC として姉妹締結

城市 JC (香港) 1984 年 11 月 4 日 姉妹締結

サウスサイゴン JC (JCI ベトナム)

2016 年 11 月 1 日 姉妹締結

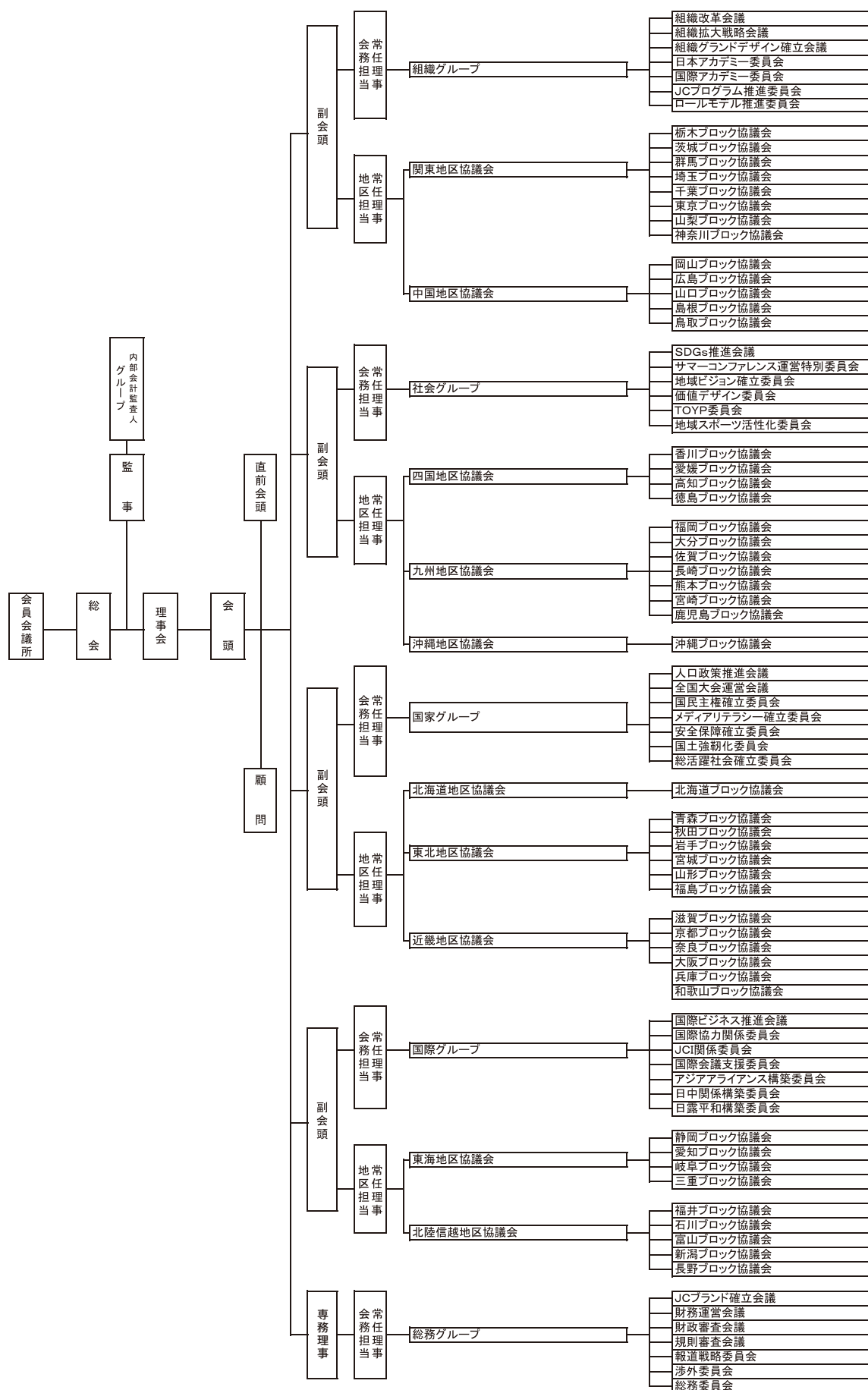
■ 友好 LOM 北九州 JC 2001 年 11 月 21 日 友好 LOM 締結

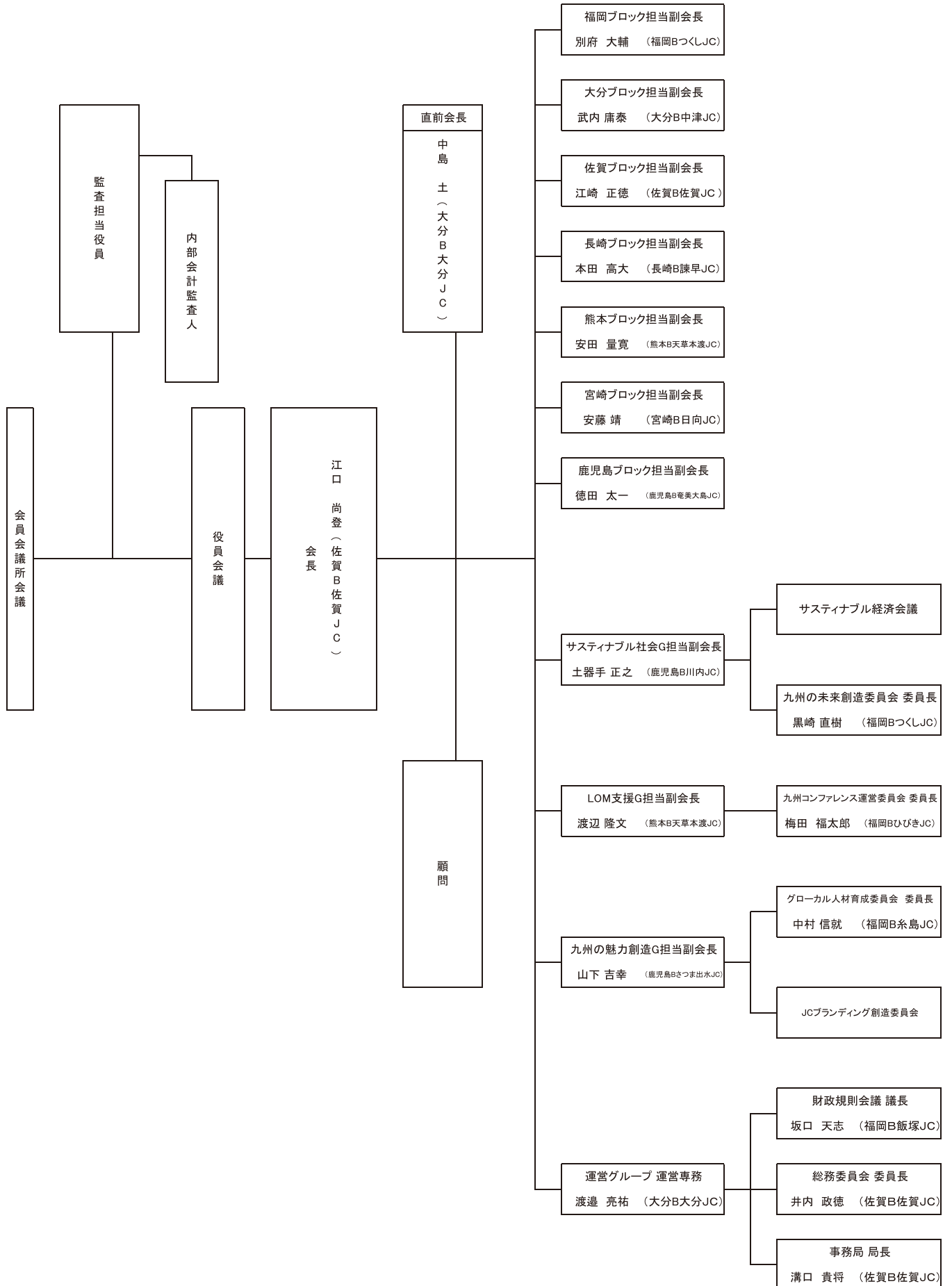
広島 JC 1986 年から毎年、交歓会を開催

公益社団法人 日本青年会議所

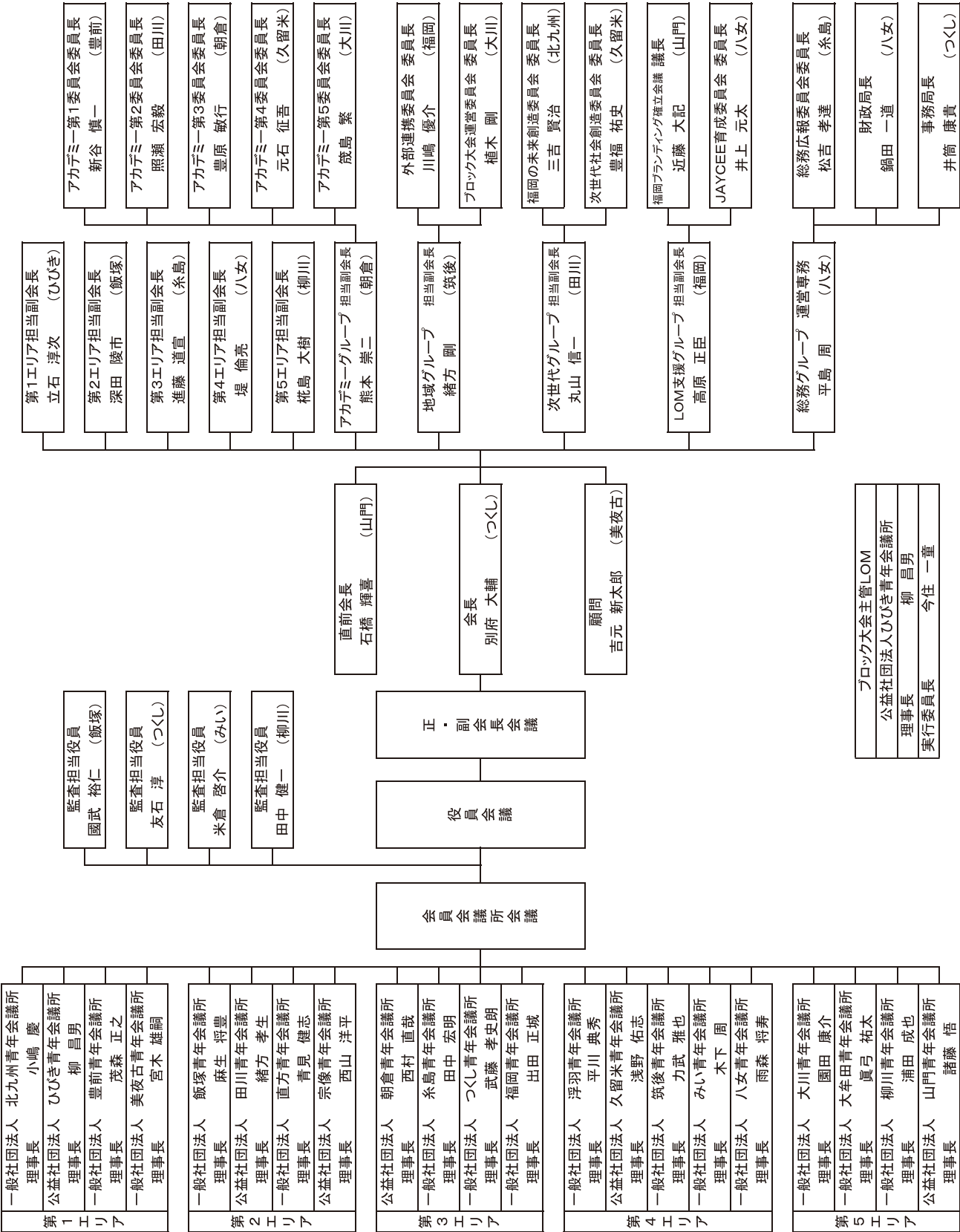
2020年度 基本資料(案)

組 織 図





2020年度福岡ブロック協議会 組織図



福岡青年会議所 歴代理事長

第1期 (1953年 2月～6月)	橋上 保久	第36期 (1988年)	財津 重美
第2期 (1953年7月～ 1954年6月)	橋上 保久	第37期 (1989年)	石坂 博史
第3期 (1954年7月～ 1955年6月)	具島 正二	第38期 (1990年)	真鍋 博俊
第4期 (1955年7月～ 1956年12月)	具島 正二	第39期 (1991年)	小林 専司
第5期 (1957年)	伊藤 剛平	第40期 (1992年)	樺島 逸兵
第6期 (1958年)	高松 光彦	第41期 (1993年)	菅原 正道
第7期 (1959年)	武内 徳夫	第42期 (1994年)	河邊 哲司
第8期 (1960年)	野上 恭敬	第43期 (1995年)	安川 哲史
第9期 (1961年)	坂本 行雄	第44期 (1996年)	松山 政司
第10期 (1962年)	高松 邦彦	第45期 (1997年)	吉松 修
第11期 (1963年)	喜多村辰男	第46期 (1998年)	田中 彰洋
第12期 (1964年)	四島 司	第47期 (1999年)	新町 敦志
第13期 (1965年)	大賀禮太郎	第48期 (2000年)	藤野 利浩
第14期 (1966年)	麻生 純三	第49期 (2001年)	井上 貴博
第15期 (1967年)	久野 桂一	第50期 (2002年)	岩本 仁
第16期 (1968年)	中島 邦補	第51期 (2003年)	廣田 稔
第17期 (1969年)	栗栖健一郎	第52期 (2004年)	井上 博行
第18期 (1970年)	田中丸善司	第53期 (2005年)	宮崎 鐘子
第19期 (1971年)	後藤 隆雄	第54期 (2006年)	小池 勝利
第20期 (1972年)	洞 尚	第55期 (2007年)	富永 太郎
第21期 (1973年)	江口昭八郎	第56期 (2008年)	新開 裕司
第22期 (1974年)	金子 宜嗣	第57期 (2009年)	大村 光
第23期 (1975年)	近江 福雄	第58期 (2010年)	大山 哲寿
第24期 (1976年)	古賀 秀策	第59期 (2011年)	長沼 慶也
第25期 (1977年)	加地 良一	第60期 (2012年)	末松 大和
第26期 (1978年)	富永 恒二	第61期 (2013年)	田川 幸平
第27期 (1979年)	榎本 一彦	第62期 (2014年)	森山 新樹
第28期 (1980年)	冬至 洋一	第63期 (2015年)	中田 泰平
第29期 (1981年)	新川 宏輔	第64期 (2016年)	藤 真臣
第30期 (1982年)	青柳 泰秀	第65期 (2017年)	鈴木 大輔
第31期 (1983年)	熊谷 信治	第66期 (2018年)	田島 敬悟
第32期 (1984年)	福永 周兵	第67期 (2019年)	岩木 勇人
第33期 (1985年)	榎本 正弘		
第34期 (1986年)	中牟田健一		
第35期 (1987年)	中村 量一		

出向外部団体一覧

	団体名
1	福岡県青少年問題協議会
2	福岡市次世代育成支援推進協議会
3	アジア太平洋こども会議・イン福岡支援の会
4	アジア太平洋こども会議・イン福岡実行委員会
5	N P O アジア太平洋こども会議・イン福岡
6	アジアフォーカス・福岡国際映画祭実行委員会
7	福岡地域留学生交流推進協議会
8	福岡・US オークランド姉妹都市委員会
9	福岡・広州姉妹都市委員会
10	福岡・ボルドー姉妹都市委員会
11	福岡・NZ オークランド姉妹都市委員会
12	北方領土返還促進福岡県民協議会
13	アビスパ福岡後援会
14	ときめきフェスタ実行委員会
15	福岡県高齢者能力活用センター
16	福岡市ごみ減量・リサイクル推進会議
17	九州市民大学
18	福岡市民の祭振興会
19	福岡県環境県民会議
20	地球温暖化防止市民協議会
21	福北交流ホームページ実行委員会
22	弁護士任官適格者推薦委員会
23	福岡フィルムコミッション
24	福岡市交通安全推進協議会
25	福岡市自動車交通公害防止計画推進協議委員会
26	犯罪のない安全で住みよいまちづくり推進本部
27	FUKUOKA みらいフェスタ
28	BCIO (Bridge Club International Organization)
29	那珂川水上交通連絡協議会
30	福岡・アジア国際戦略特区推進会議
31	福岡城・鴻臚館の将来を市民と考える実行委員会
32	地域司法連絡協議会
33	FUKUOKA Christmas Market 実行委員会
34	福岡マラソン実行委員会
35	福岡よる旅プロジェクト実行委員会
36	アビスパグローバルアソシエイツ (AGA)
37	一般社団法人 九州インターンシップ推進協議会
38	社会福祉法人 野の花学園
39	福岡トライアスロン大会
40	グローバルコミュニティ FUKUOKA 推進プラットフォーム
41	第 19 回 FINA 世界水泳選手権 2021 福岡大会組織委員会
42	第 19 回 FINA 世界水泳選手権 2021 福岡大会実行委員会
43	福岡ソフトバンクホークス優勝祝賀パレード実行委員会



一般社団法人 福岡青年会議所

〒812-0021

福岡市博多区築港本町 13-6 ベイサイドプレイス博多 C棟

TEL: 092-263-6333 FAX: 092-263-6334

13-6, Chikkouhonmachi, Hakataku,

Fukuoka-shi, Fukuoka, 812-0021, JAPAN

PHONE +81-92-263-6333 FAX +81-92-263-6334

URL <http://www.fukuoka-jc.or.jp/>

E-mail fjc@bekkoame.jp